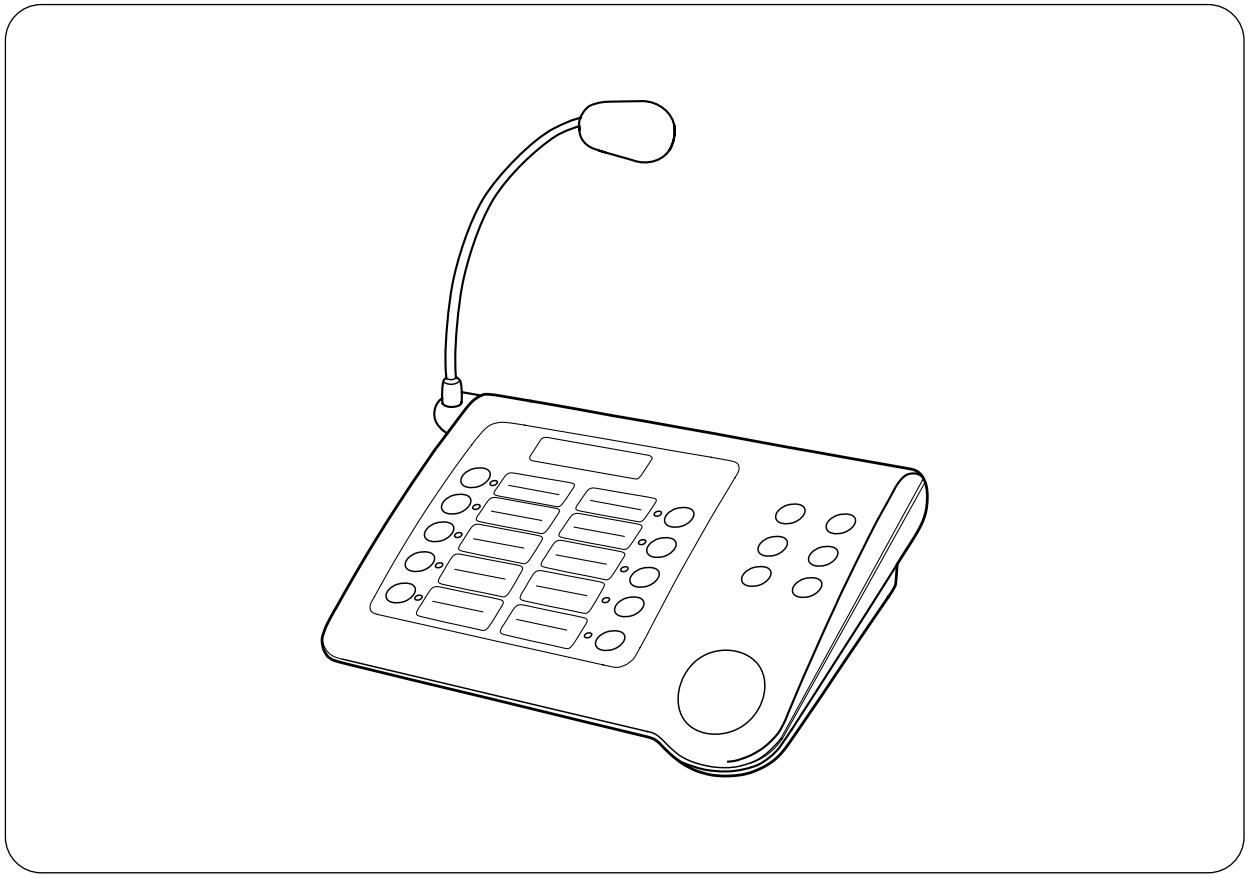
TOA

取扱説明書

リモートマイクロホン　SX-1200



このたびは、リモートマイクロホンSX-1200をお買上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。
本機はマトリックスシステムSX-1000/-1000Mシリーズ専用のリモートマイクロホンです。他のシステムでは使用できませんのでご注意ください。
設置工事・調整・データ設定は、必ず販売店におまかせください。

設置工事上のご注意（販売店、設置業者の方へ）

SX-1200を動作させるためには、マトリックスコントローラ本体でのデータ設定作業が必要です。
設定作業に入る前に、「データ設定表」を作成しておいてください。〔SX-1000/-1000M設置要領書（データ設定編）をご覧ください。〕

TOA株式会社

目　次

安全上のご注意 …… 3
概　要 …… 5
特　長 …… 5
各部の名称とはたらき …… 6
リモートマイク操作の全体の流れ
　操作の流れ …… 10
　オートマイクオフ機能 …… 10
放送のしかた
　グループ放送をするとき …… 11
　個別放送をするとき …… 12
チャイム放送
　チャイム音の種類 …… 13
　オートチャイム放送 …… 13
　マニュアルチャイム放送 …… 14
　オートチャイム放送とマニュアルチャイム放送の組み合わせ …… 15
ファンクションスイッチについて …… 16
操作上のご注意（こんな表示が出たら）
　リモートマイクを使用していないときのグループ表示灯の点灯 …… 17
　放送操作をしているときのメッセージ表示 …… 17
　リモートマイク複数台接続時の放送中表示 …… 20
　本体の電源切断表示 …… 20
　リモートマイクの電源異常表示 …… 20
リモートマイク SX-1200 の設置・接続の手順 …… 21
記名カードの記入（交換） …… 22
リモートマイクのアドレス設定
　リモートマイクのアドレスと本体入力 No. …… 22
　リモートマイクのアドレス設定表 …… 23
　リモートマイク複数台接続時の子機のアドレス設定 …… 24
個別放送の回線番号
　リモートマイクに表示される回線番号 …… 25
　リモートマイクで操作するときの回線番号 …… 25
リモートマイク SX-1200 の本体との接続
　接続上の条件 …… 27
　CPEV・S 線について …… 27
　リモートマイク SX-1200 1 台（1 ライン）の接続 …… 28
　リモートマイクの複数台接続 …… 29
　リモートマイク SX-1200 3 台（1 ライン）の接続（パラブランチ接続例） …… 31
　接続ケーブルのねじなし端子台への配線 …… 32
　端子台カバーの取り付け …… 33
壁掛設置のしかた …… 34
通電と通信セットアップスイッチの操作
　接続後の通電 …… 35
　通信セットアップスイッチの操作 …… 35
　通信セットアップスイッチ操作時の正常な表示 …… 36
　通信セットアップスイッチ操作時のエラー表示 …… 36
　リモートマイクの電源異常表示 …… 37
リモートマイクでの機能設定
　機能設定の項目 …… 38
　機能設定のしかた …… 39
音量調節のしかた
　放送音量の確認と調節 …… 41
　マイク感度調節 …… 42
　チャイム音量調節 …… 42
　モニタ音量調節 …… 42
仕　様 …… 43

安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保存してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

図記号について

注意を促す記号	行為を禁止する記号	行為を強制する記号
注　意	分解禁止　禁　止　接触禁止	電源プラグを抜け

⚠ 警告

誤った取り扱いをしたとき、人が死亡または重傷に結びつく可能性のあるもの。

水にぬらさない

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

指定外の電源電圧で使用しない

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

接続コードを傷つけない

接続コードを傷つけたり、熱器具に近づけたりしないでください。
また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

禁　止

設置場所の強度を確認

壁掛取り付けをするときは、取付金具類を含む全重量に十分耐えられる強度のある所に取り付けてください。
十分な強度がないと落下して、けがの原因となります。

注　意

医療機器の近くに設置しない

電磁波で医療機器に影響を与えることがあります。

禁　止

⚠ 警告

誤った取り扱いをしたとき、人が死亡または重傷に結びつく可能性のあるもの。

万一、異常が起きたら

次の場合、本体のメインパネルと増設パネルの電源スイッチを切り、開閉器を「切」にして販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 接続コードが傷んだとき（芯線の露出、断線など）

注　意

内部を開けない、改造しない

ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

分解禁止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災の原因となります。

禁　止

内部に異物を入れない

本機の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落し込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

雷が鳴ったらさわらない

雷が鳴り出したら、接続線にはさわらないでください。感電の原因となります。

接触禁止

⚠ 注意

誤った取り扱いをしたとき、人が傷害または物的損害に結びつく可能性のあるもの。

設置場所に注意

湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

禁　止

上に重いものを置かない

バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

禁　止

製品の上に乗らない

本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。
倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

お手入れの際、長期間使用しない場合の注意

お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため本機への電源（DC24V）供給を止めてください。
火災の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

概　要

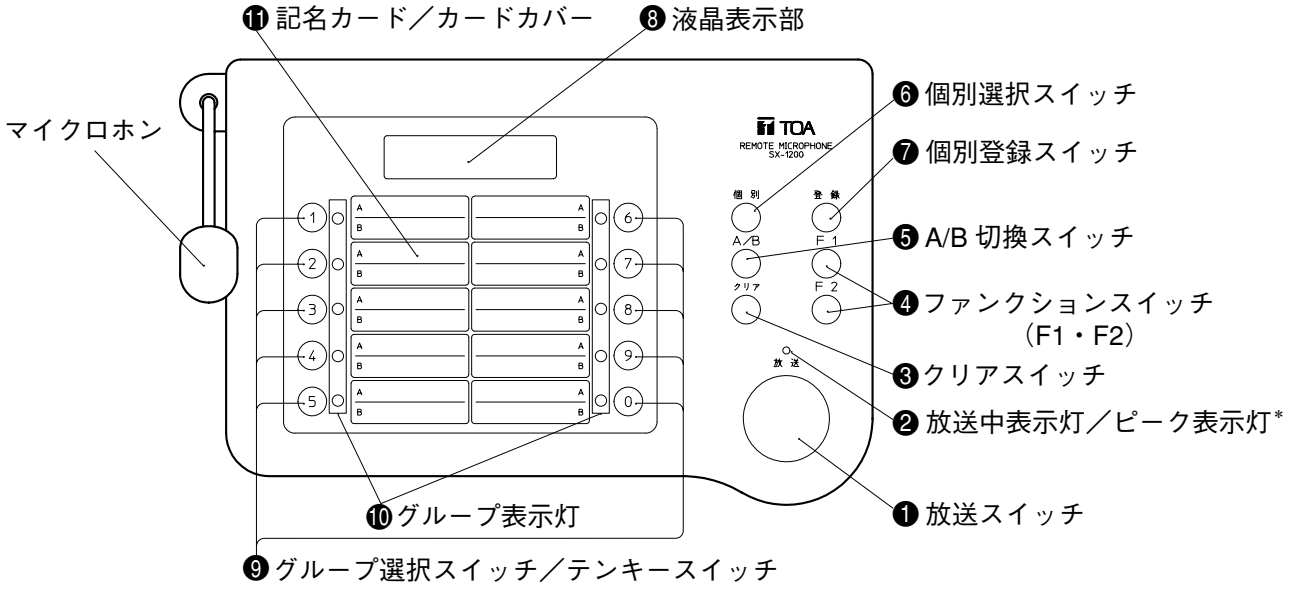
本機は、スマートマトリックスシステム SX-1000/-1000M シリーズに接続して使用する業務専用のリモートマイクロホンです。
20 局のグループ/一斉放送、および個別放送ができます。
PCM 音源によるチャイムを内蔵しています。

特　長

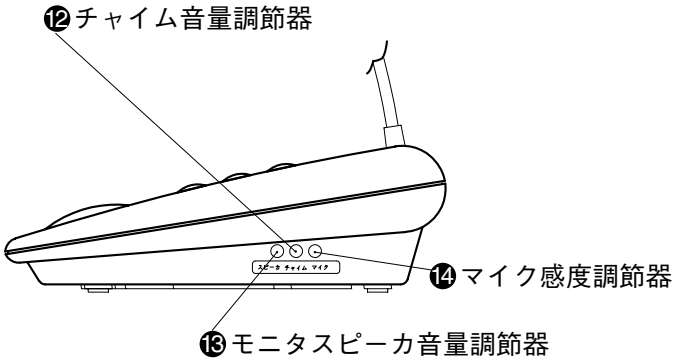
- 液晶表示によって、放送状態の確認が簡単にできます。
- 一度に最大 30 回線の個別放送ができます。
- マイク放送に適した単一指向性マイクロホンを採用しています。
- 壁掛型としても使用できます。
- 放送を始めるきっかけをつかみやすいように、内蔵チャイム音のモニタができます。
- グループ表示灯により、放送系統の使用状況が一目でわかります。
- 1 つの接続ライン上に 3 台までのリモートマイクロホンを接続することができます。

各部の名称とはたらき

● 操作面部



● 側面部



❶ 放送スイッチ

マイク放送をするときにこのスイッチを押します。

- プレストーク式設定のとき：
  放送中はスイッチを押し続けます。スイッチから手を離すと放送は終了します。
- ロック式設定のとき：
  放送を終了するときはスイッチを再度押します。

❷ 放送中表示灯／ピーク表示灯*

マイク放送中に点灯し、チャイム放送中、またはマイク放送待機中には点滅します。

＊ピーク表示灯
設置時にマイク感度調節をするときに機器内部のスイッチを切り換えることによりピーク表示灯の機能になります。（☞ P. 42「マイク感度調節」）

❸ クリアスイッチ

- 選択した回線（グループ放送／個別放送）を取り消すとき、液晶表示部に表示されたメッセージを消去するとき、ロック式設定の際に放送を終了するときなどに押します。
- ロック式設定で放送終了時のチャイムが設定されているとき、このスイッチを押して放送終了をすると放送終了時のチャイム放送がされずに終了します。

❹ ファンクションスイッチ（F1 ・ F2）

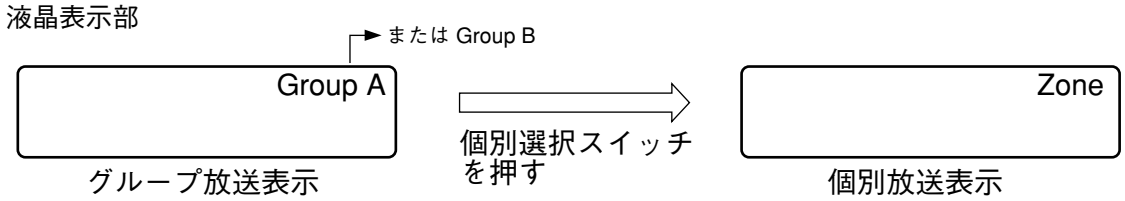
手動でのチャイム放送の起動や制御出力の連動制御（メロディクスやデジタルアナウンスマシンのリモート起動）などの機能をこのスイッチに割り付けることができます。
※ 機能が割り付けられていないときはこれらのスイッチを押しても動作しません。

❺ A／B切換スイッチ

- グループ放送系統の選択時にAグループ（A1～A0）とBグループ（B1～B0）を切り換えるスイッチです。押すごとにGroup A→Group B→Group A→Group B…と切り換わります。
  また個別回線選択時に3回線以上を選択したときに、このスイッチを押すと1つ前に選択した回線番号を確認することができます。押すごとにすでに選択された回線番号がひとつづつ表示されます。

❻ 個別選択スイッチ

このスイッチを押すと、個別放送のモードになります。*



再度押すとグループ放送のモードになります。

＊ 個別放送機能を使わないときは、このスイッチを押しても動作しないように設定することができます。

❼ 個別登録スイッチ

個別放送選択時に①～⓪のスイッチで選んだ回線番号を確定させるときに押します。

❽ 液晶表示部

放送状態や各種のメッセージを表示します。

❾ グループ選択スイッチ／テンキースイッチ

グループ放送／個別放送で放送場所を選択するときに押します。

❿ グループ表示灯

該当するグループを本機が使用中のときに点灯し、また多機が使用中のときは点滅します。

⓫ 記名カード／カードカバー

各放送グループの名称を記入します。
（カードおよびカバーの取り外し、取り付けのしかた ☞ P. 22「記名カードの記入（交換）」）

⓬ チャイム音量調節器

チャイム放送の音量を調節します。

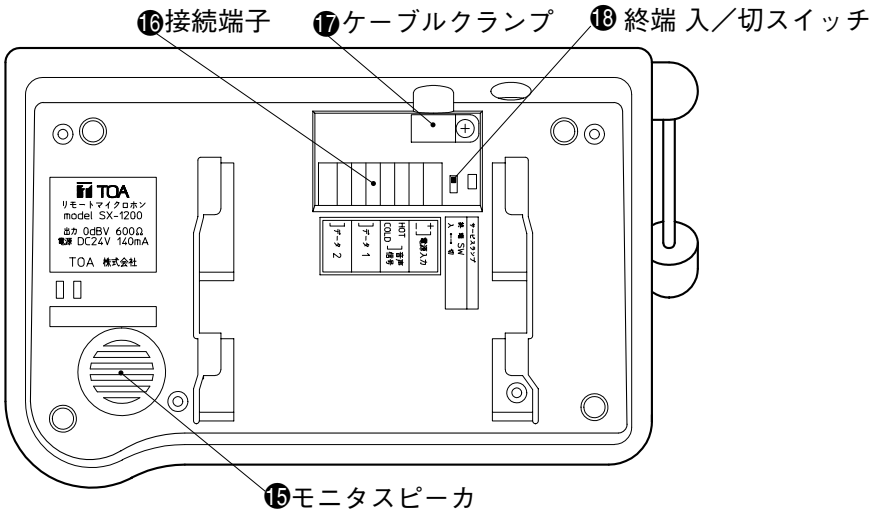
⓭ モニタスピーカ音量調節器

チャイム放送時のチャイムモニタ音（底面のモニタスピーカから出力）の音量を調節します。

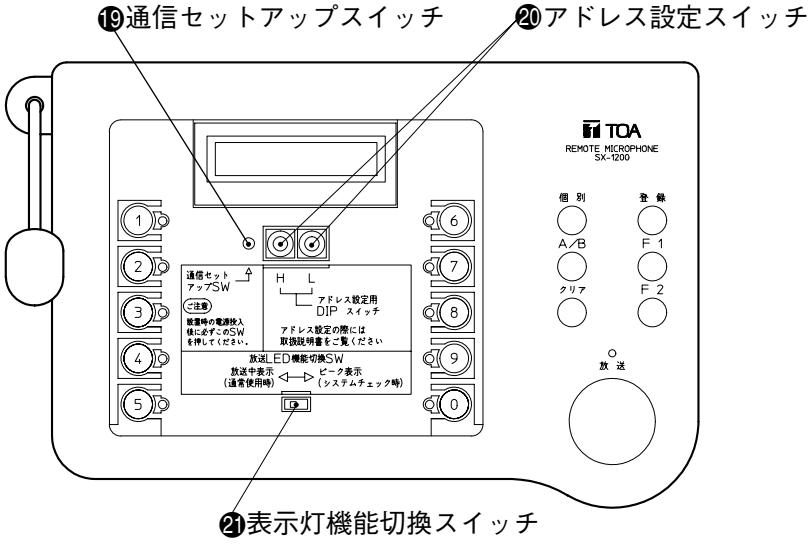
⓮ マイク感度調節器

マイク放送時のマイク感度を調節します。
（⓬～⓮ の各調節器の調節のしかた ☞ P. 41「音量調節のしかた」）

● 底面部



● 操作面部（記名カード/カードカバーを外した状態）



⓯ モニタスピーカ

操作時の確認音（ピッ）、エラー音（ピピピ）やチャイム放送時のチャイムモニタ音を出力します。
※ 操作時の確認音やエラー音を出さないように設定することもできます。

⓰ 接続端子

本体機器からの配線を接続します。

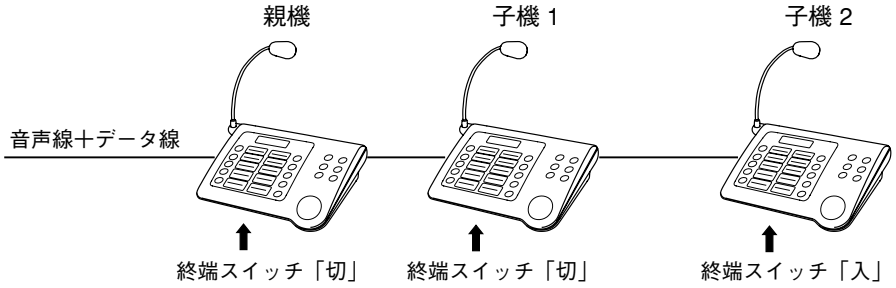
⓱ ケーブルクランプ

本体機器からの配線を固定します。

⓲ 終端 入／切スイッチ

1 回線に 1 台の SX-1200 を接続をするときは、このスイッチを「入」にします。
1 回線に複数の SX-1200 を接続をするときは、接続形式（パラブランチ接続、フリートポロジー接続）により、このスイッチの設定が異なります。（☞ P. 29「リモートマイクの複数台接続」）

パラブランチ接続時の例



⓳ 通信セットアップスイッチ

設置時に、本体機器と SX-1200 とを接続し通電をした後に、このスイッチを押すと通信可能な状態になります。
※ このスイッチを押さないとリモートマイクは動作しません。

⓴ アドレス設定スイッチ

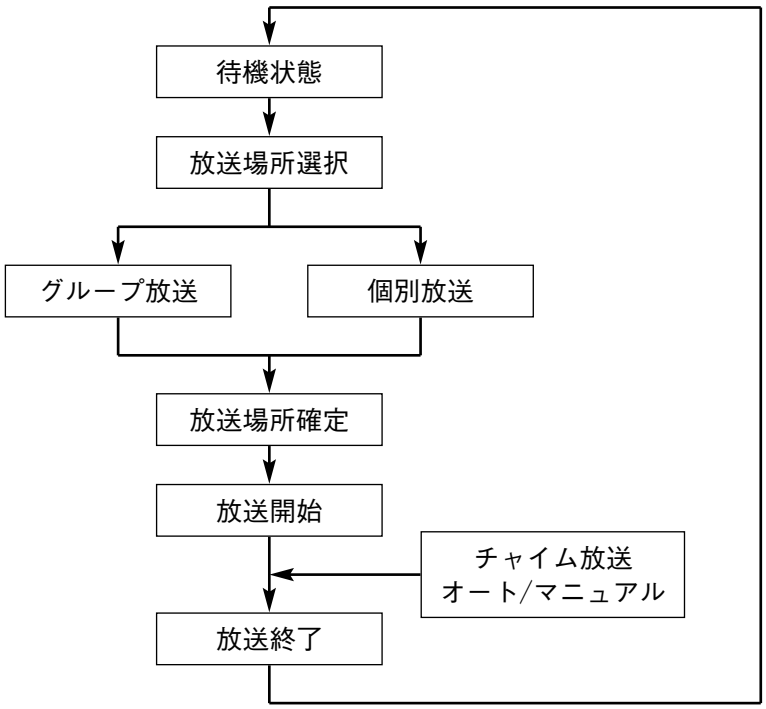
接続されている SX-1200 のアドレスを設定するためのスイッチです。

㉑ 表示灯機能切換スイッチ

放送中表示灯／ピーク表示灯 ❷ の機能を切り換えます。
通常は「放送中表示」の位置にしておきます。
「ピーク表示」機能はマイク感度調節時に使います。

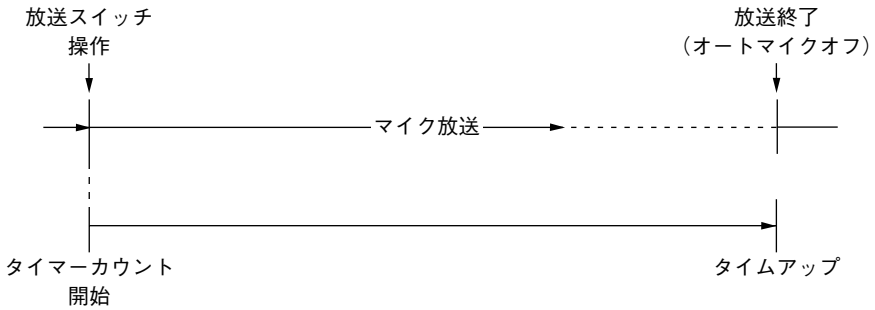
リモートマイク操作の全体の流れ

■ 操作の流れ



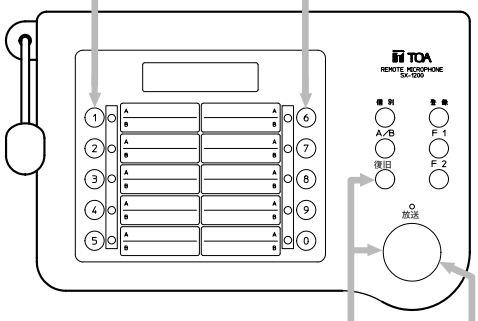
■ オートマイクオフ機能

オートマイクオフ機能は、放送スイッチを押してから一定時間を経過すると自動的にマイクがオフとなり、待機状態になる機能です。放送終了後のマイクの切り忘れ防止（特にロック式設定時）用に使用します。
設定は、「オートマイクオフなし」、「オートマイクオフ1分～20分（1分毎に設定可）」が設定できます。
設定は本体側で行います。



放送のしかた

■ グループ放送をするとき



※マイク放送はマイクロホンから口までの距離を約10cm離して行ってください。

1. ①～⓪スイッチを押して、放送したいグループ（1～0）を選びます。

① スイッチを押すと

Group A
A 1

複数のグループを選ぶときは、つづけて ①～⓪スイッチを押します。

つづけて③、⑦スイッチを押すと

Group A
A 1・A 3・A 7

選択したグループ表示灯が点灯します。
取り消すとき
・1つだけのグループ →取り消したいグループスイッチを再度押す。
・すべて →クリアスイッチを押す。

●「B」のグループを選ぶときは、A/B スイッチを押して液晶表示部の右上に「Group B」を表示させます。

Group B

次に①～⓪スイッチを押して、グループ（1～0）を選びます。

つづけて②、③スイッチを押すと

Group B
B 2・B 3

選択したグループ表示灯が点灯します。

2. 放送 スイッチを押し（放送中表示灯が点灯）、マイク放送をします。
●プレストーク式設定 →押したまま放送
●ロック式設定 →放送スイッチを押してから離して放送

3. 放送を終わるときは、
●プレストーク式設定 →放送スイッチを離す
●ロック式設定 →・放送スイッチを再度押す
・クリアスイッチを押す（放送終了時のチャイムは鳴りません）

● AとB両方のグループに放送するとき

1. ①～⓪スイッチを押して、放送したいAのグループ（1～0）を選びます。

Group A
A 1・A 3・A 7

2. A/B スイッチを押してディスプレイ右上に「Group B」を表示させます。

Group B
A 1・A 3・A 7

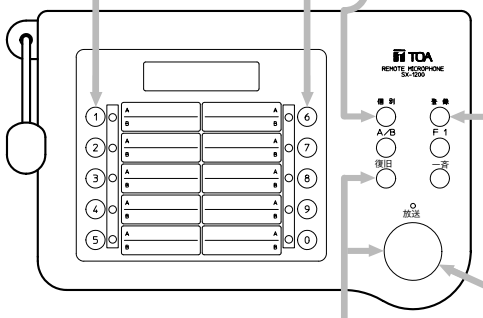
次に、①～⓪スイッチを押して、Bのグループ（1～0）を選びます。
ただし、液晶表示部に表示されるグループ番号は5つまでです。
グループを選んだ後は上記の手順と同様に放送をしてください。

Group B
A 1・A 3・A 7・B 2・B 3

※Bグループが全く設定されていないとき、A/B切換スイッチを押しても動作しません。

■ 個別放送をするとき

※ 1 度に選択できる個別回線数は 30 までです。



1. 個別 スイッチを押します。*1

Zone

2. 放送したいスピーカ回線番号を①～⓪スイッチを押して入力します。
取り消すときは、クリア スイッチを押します。*2

回線番号 31 を選択すると

31 Zone

3. 登録 スイッチを押します。*1

Zone
03100

回線番号の表示が上段→下段へ移行します。*3
複数の回線を選ぶときは 2、3 をくり返します。

※ マイク放送はマイクロホンから口までの距離を約 10cm 離して行ってください。

4. 放送 スイッチを押し（放送中表示灯が点灯）、マイク放送をします。
- プレストーク式設定 → 押したまま放送
- ロック式設定 → 放送スイッチを押してから離して放送

5. 放送を終わるときは、
- プレストーク式設定 → 放送スイッチを離す
- ロック式設定 → ・放送スイッチを再度押す
  ・クリアスイッチを押す

または Group B
Group A

*1 個別放送機能を使わないときは、このスイッチを押しても動作しないように設定することができます。（☞ P.38「リモートマイクでの機能設定」）

*2 スピーカ回線番号を入力中に、個別放送をとりやめるときは 個別 スイッチを押します。

*3 回線番号の表示が下段に移ったとき、5 桁の番号となります。（☞ P.25「個別放送の回線番号」）

※ 個別放送機能を使うときは、別に回線番号表を作成してください。（☞ P.26「回線番号表の例」）

チャイム放送

※「本体側でのデータ設定」については、「設置要領書（データ設定編）」をご覧ください。

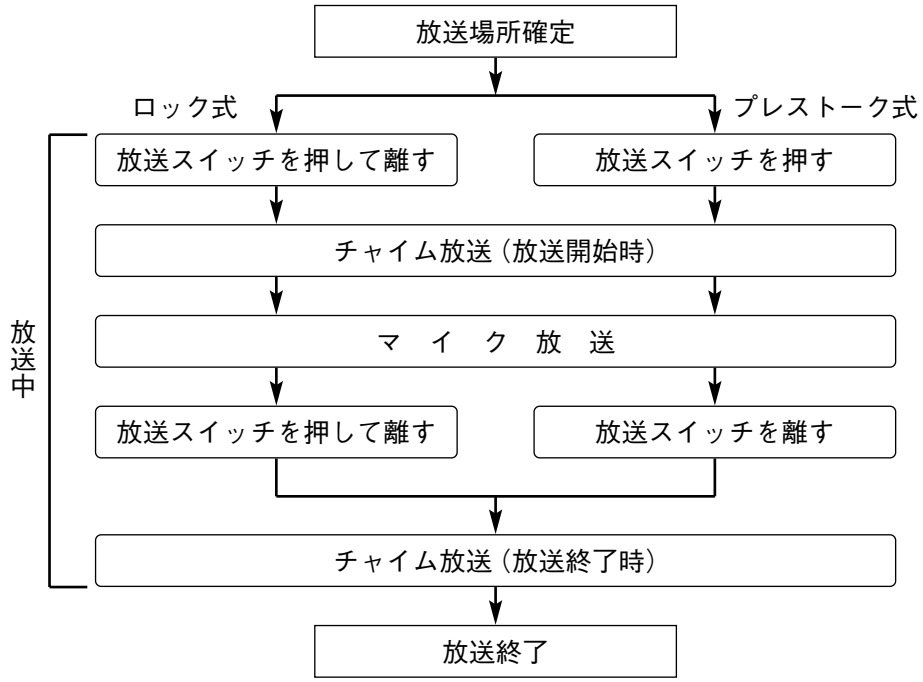
■ チャイム音の種類

1. 上り4音
2. 下り4音
3. 2音
4. ゴング（1音）

本体でのデータ設定により、マイク放送の前後のチャイム放送を各種の組み合わせですることができます。（チャイムなしも可）
※ 設定するチャイム音を「データ設定表（別冊）」に記入してください。

■ オートチャイム放送

マイク放送の前後に放送スイッチの操作のみで自動的にチャイム放送をすることができます。

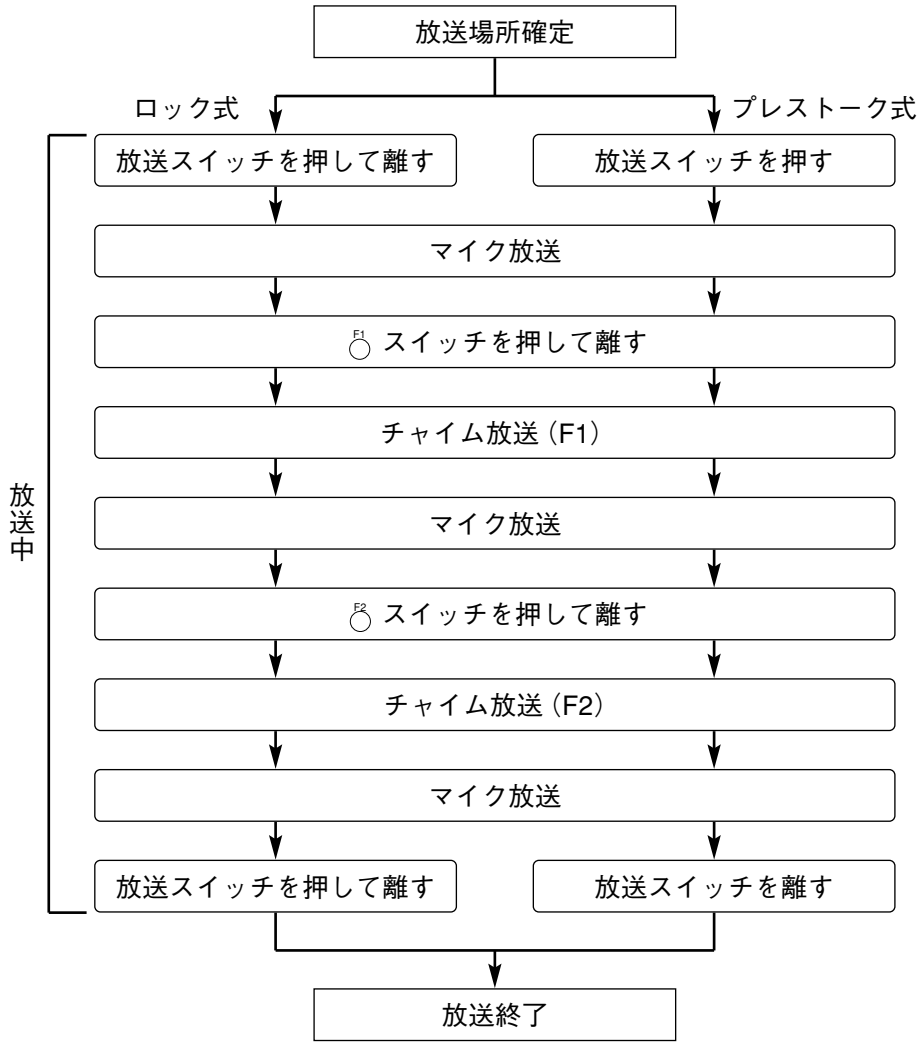


- チャイム放送（放送開始時）およびチャイム放送（放送終了時）に4種のチャイム音またはチャイムなしを割り当てることができます。（ ☞ 本体側でのデータ設定）
- チャイム放送中はマイクロホンが切れ、放送中表示灯が点滅します。
- チャイム放送中のモニタ音はSX-1200底面のモニタスピーカより出力されます。
  マイク放送を始めるきっかけとして利用します。

※プレストーク式でも、チャイム放送中に 放送 スイッチを離しても放送終了にはなりません。
チャイム放送の後で、もう一度 放送 スイッチを押してから離して、放送を終了させてください。

■ マニュアルチャイム放送

マイク放送中にファンクションスイッチ（F1 または F2）を押すことにより、チャイム放送をすることができます。



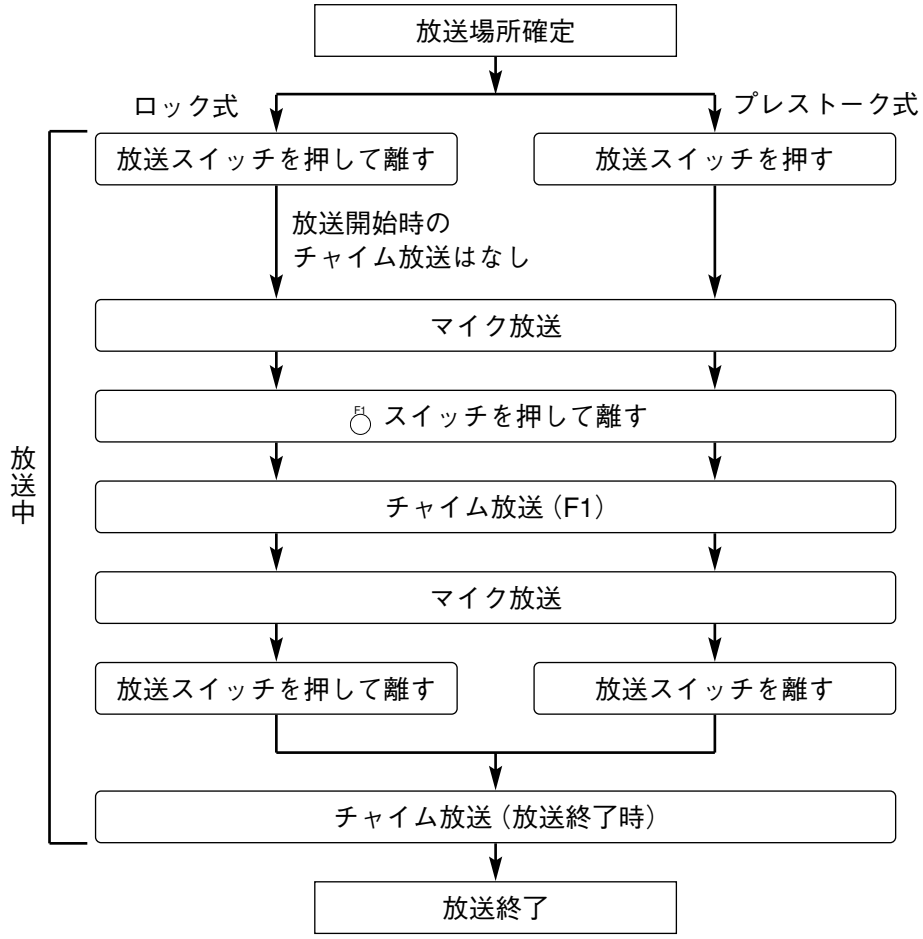
- チャイム放送（F1）およびチャイム放送（F2）に 4 種のチャイム音またはチャイムなしを割り当てることができます。（☞ 本体側でのデータ設定）
- チャイム放送中はマイクロホンが切れ、放送中表示灯が点滅します。
- チャイム放送中のモニタ音は SX-1200 底面のモニタスピーカより出力されます。
  マイク放送を始めるきっかけとして利用します。
- 1 つのファンクションスイッチに対し 1 つのチャイム音のみ設定できます。
  放送スイッチが「プレストーク式」の設定でマニュアルチャイムを使用すると、操作のしにくい状態（放送スイッチを押したまま F1、F2 スイッチを押す）になりますので、マニュアルチャイム放送にはロック式の設定でのご使用をおすすめします。

※ 本体で設定する内容を「データ設定表（別冊）」に記入してください。

■ オートチャイム放送とマニュアルチャイム放送の組み合わせ

放送場所によりマイク放送開始時のチャイム音を変えたいときなどは、オートチャイムとマニュアルチャイムを組み合わせることができます。

- 「放送開始時のチャイムなし」にした例
  本体の設定で、
  1. オートチャイム（放送開始時）を「なし」、
  2. オートチャイム（放送終了時）に「チャイム音を割り当て」、
  3. F1スイッチに「チャイム音を割り当て」、
  としておきます。



※ チャイム音の設定、オートチャイム／マニュアルチャイムの設定、放送スイッチのロック式／プレストーク式の設定はリモートマイクごとにできます。
（設定内容を「データ設定表（別冊）」に記入してください。）

ファンクションスイッチについて

● ファンクションスイッチF1およびF2に次の機能を割り当てることができます。

1. 内蔵のチャイム（4種）の起動
　リモートマイクが放送中のときのみチャイムの起動をし、チャイム放送をすることができます。
　チャイム放送中はマイクロホンが「切」になり放送中表示灯が点滅します。

2. 制御出力の連動制御
　ファンクションスイッチを押すことにより、設定された特定の制御出力を「入」にすることができます。

［応用例］
リモートマイクのファンクションスイッチを押すことで、デジタルアナウンスマシンの起動をかけ、定型化されたメッセージを決められた場所に放送します。（雨天時のカサの忘れ物注意喚起放送など）

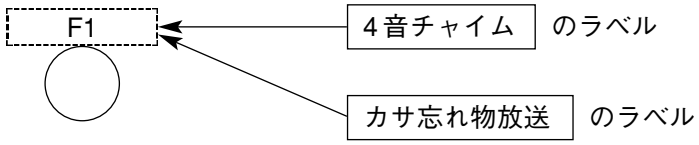
● この機能に設定したときは、リモートマイクの動作にかかわらずこの機能が働きます。（放送中でも可能です）

● 2つのファンクションスイッチ F1 と F2 のそれぞれに上記の1.または2.の機能を割り当てることができます。

● 設定はリモートマイクごとにできます。

● 設定は本体側で行います。
　設定内容をまず「データ設定表（別冊）」に記入してください。

● ファンクションスイッチにこの機能を割り当てたときは、その内容がわかる表示ラベルを作成しリモートマイクのスイッチの上に貼り付けておくと便利です。



※ラベルの大きさは5×15（mm）程度が適当です。

操作上のご注意（こんな表示が出たら）

■ リモートマイクを使用していないときのグループ表示灯の点灯

BGM 放送中の回線を除き、放送中の回線を含むグループのグループ表示灯が点滅します。
例：グループ 3 が回線番号 2、10、15、25、30 の 5 つの回線で組まれている状態で 15 の回線が使用されているとき、グループ 3 のグループ表示灯が点滅します。
ただし、どの回線またはどの機器が使用されているかの確認はリモートマイクではできません。

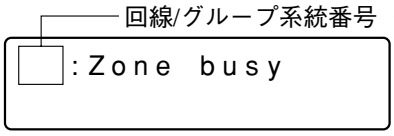
リモートマイクからグループ放送を始めようとするときにグループ表示灯が点滅している場合は、一部の回線に放送できないことがありますので注意が必要です。

■ 放送操作をしているときのメッセージ表示

● メッセージ表示1

回線番号（グループ／個別）を選択せずに、放送スイッチを押すと表示されます。
→回線番号を選択するメッセージは消えます。

● メッセージ表示2



回線番号選択中または放送中に、放送できない回線またはグループ系統ができたことを示します（優先度の高い機器による割込放送があったときなど）。

● 回線番号選択中

→他の回線を選択すると表示は消え、回線選択状態は継続します。
→クリアスイッチを押すとメッセージは消え、回線選択は終了します。

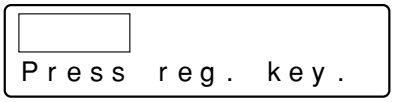
● 放送中

→放送できない回線以外の回線にはそのままで放送できます。
→クリアスイッチまたは放送スイッチを押すと、放送は終了します。
（メッセージは消えません。さらにクリアスイッチを押すと、メッセージは消えます。）

● メッセージ表示3

放送中に他の優先度の高い機器からの放送により、放送中のすべての回線が強制的に切断されたか、ロックアウトがかかったことを示します。
→クリア スイッチを押すとメッセージは消えます。

● メッセージ表示4

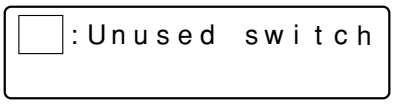


個別回線番号を選択したときに、6桁以上の数字を入力したときに表示されます。
→正しい回線番号を入力し直してください。

● メッセージ表示5

Bグループの放送系統が設定されていないとき、グループ選択で A/B スイッチを押すとこの表示が出ます。
→Aグループの系統を選択するとメッセージは消え、グループ選択状態は継続します。
→クリア スイッチを押すとメッセージは消え、グループ選択状態は終了します。

● メッセージ表示6



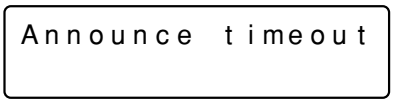
グループ選択で、設定されていないグループ選択スイッチを押すと表示されます。
→他のグループを選択するとメッセージは消え、グループ選択状態は継続します。
→クリア スイッチを押すとメッセージは消え、グループ選択状態は終了します。

● メッセージ表示7

個別回線選択で、存在しない回線番号を入力し、登録スイッチを押したときに表示されます。
→正しい回線番号を入力し直すと、回線選択状態は継続します。
→クリアスイッチを押すと、回線選択状態は終了し、次の表示になります。

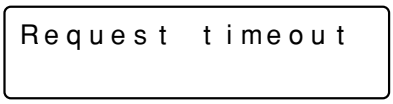
→個別スイッチを押すと、回線選択状態は終了し、次の表示になります。

● メッセージ表示8



オートマイクOFF機能が設定されていて、タイムアップ時に強制的に放送が終了させられたときに表示されます。
→クリアスイッチを押すとメッセージは消えます。

● メッセージ表示9



この表示が出たときは、本体に不具合が生じたことが考えられます。
→本体の電源を一度切断してから投入し直してください。
↓
それでも同じ症状が出たときは、販売店へご連絡ください。

■ リモートマイク複数台接続時の放送中表示

Other in use

（表示の一例です）

複数のリモートマイクが接続されたライン上のリモートマイク間で、他のリモートマイクが放送中のときに、このメッセージが上の行に表示されます。
→この状態で放送ができるかどうかは、このラインの「同一優先度の機器（リモートマイク）間での優先方式」が先取り／後取りのどちらに設定されているかによって決まります。（☞ 設定要領書（データ設定編））
先取り優先のとき：放送できません。
後取り優先のとき：放送できます。

■ 本体の電源切断表示

SX-1000 not in operation

マトリックス本体の電源が入っていないときに表示されます。
→マトリックス本体の電源を入れると、メッセージが消えリモートマイクが使用できます。

■ リモートマイクの電源異常表示

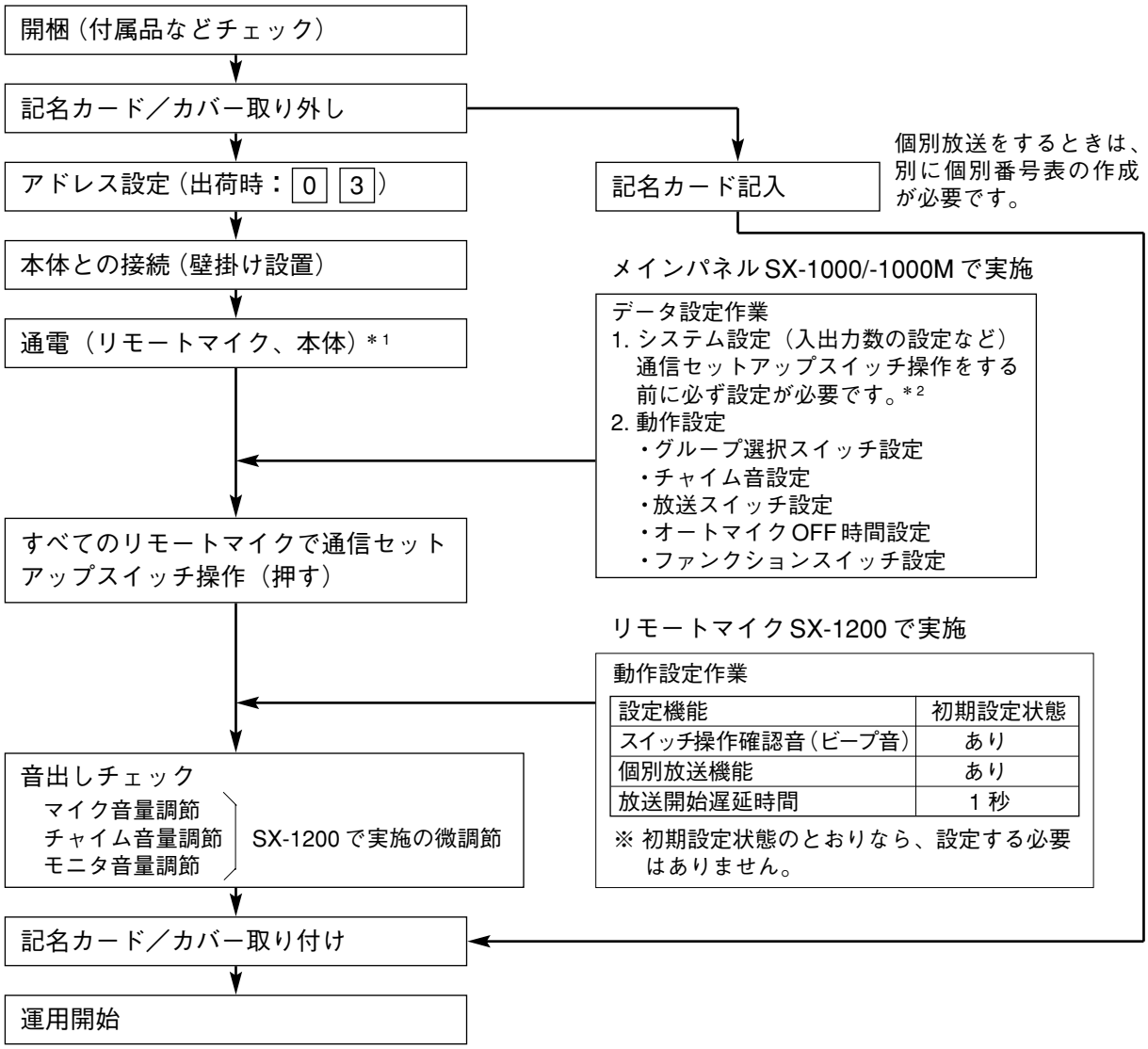
Power Fault Check DC Supply

SX-1200 に供給されている DC 電源の電圧が低下して使用不可の状態になったとき、この表示が出ます。
→販売店に点検を依頼してください。

● 販売店の方へ

DC 電源を点検してください。
※ SX-1200 の動作可能電圧範囲： DC 16～33 V

リモートマイクSX-1200の設置・接続の手順



*1 リモートマイクに別電源を使用するときは、リモートマイクと本体の電源の投入が同時か、またはリモートマイクの方が本体より早く投入されるようにしてください。

*2

重要

本体側で「音声入力属性設定（AUDIO INPUT SETTING）のリモートマイク（RM）の設定（設定表タイプ1）」の設定／変更をするときには、事前にリモートマイクの通電をし、設定後にすべてのリモートマイクで通信セットアップスイッチを押してください。

※リモートマイクの電源を落とした状態で、上記のRM設定をしたときには、そのリモートマイクの電源投入後に必ず通信セットアップスイッチを押してください。

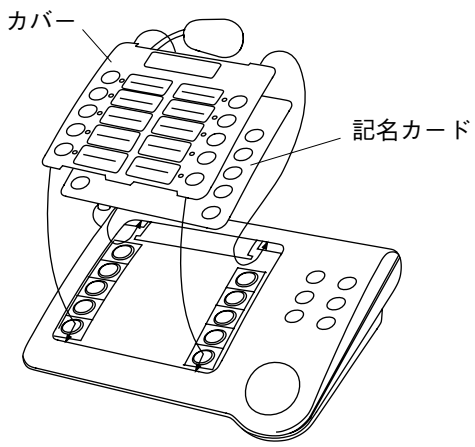
記名カードの記入（交換）

1. カバーのすき間に先端の細いものをさし込み、持ち上げて外します。

2. 記名カードを外して、放送場所（グループなど）を記入（交換）します。グループ放送が10グループのときは、裏側を使用してください。

3. 始めに記名カード、次にカバーをもとのとおりに差し込みます。

※カバー取り付けの際はカバー表面の艶がない方を上にして取り付けてください。



リモートマイクのアドレス設定

■ リモートマイクのアドレスと本体入力No.

アドレス設定は、記名カード／カバーを取り外し、液晶表示部の下方のアドレス設定スイッチ（DIPロータリースイッチ2個）で行います。

- アドレス設定はリモートマイクに電源供給を行う前に実施してください。
  電源供給後では正しい認識がされません。
- アドレスNo.は本体側の入力No.に対応したものとなります。]

※リモートマイク入力ボード（SX-1050）はメインパネルのスロットNo. 1～10にのみ装着することができ、それに対応した入力No.はNo. 1～No. 40までです。
ここでの入力No.はリモートマイク入力のみのNo.ではなく他の入力ボード（基本入力ボードまたはオーディオ入力ボード（SX-1010））と混在した状態での通し番号です。

- 入力No.の例

No. 1	本体ハンドマイク	基本入力ボード
2	音声入力	
3	RM入力	
4	音声／RM入力	
5	音声入力	オーディオ入力ボード SX-1010
6	音声入力	
7	音声入力	
8	音声入力	
9	RM入力	リモートマイク入力ボード SX-1050
10	RM入力	
11	RM入力	
12	RM入力	

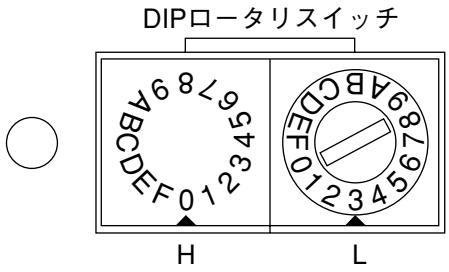
※このときのリモートマイクのアドレスは、3、(4)、9、10、11、12となります。

- リモートマイクのアドレスは、「データ設定表（別冊）」の「リモートマイクアドレス表」に記入してください。

■ リモートマイクのアドレス設定表

本体の音声入力端子No. に対応したリモートマイクアドレスをDIPロータリースイッチHおよびLで下表のとおり設定します。

使用工具：小型 ⊖ ドライバ



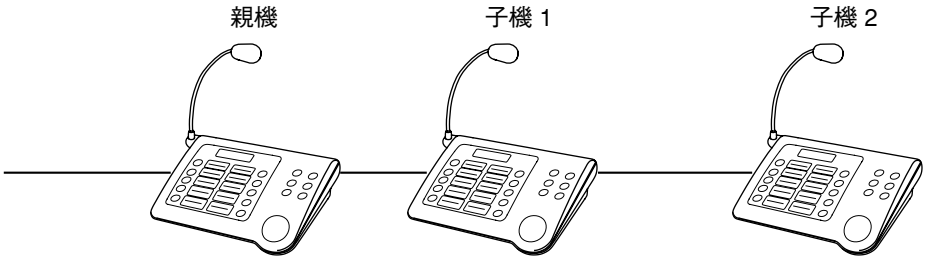
左図は出荷時設定状態
（H：0、L：3）

出荷時設定値 →

本体の音声入力No.	リモートマイクアドレス	
	DIP スイッチ H	DIP スイッチ L
1	0	1
2	0	2
3	0	3
4	0	4
5	0	5
6	0	6
7	0	7
8	0	8
9	0	9
10	0	A
11	0	B
12	0	C
13	0	D
14	0	E
15	0	F
16	1	0
17	1	1
18	1	2
19	1	3
20	1	4

本体の音声入力No.	リモートマイクアドレス	
	DIP スイッチ H	DIP スイッチ L
21	1	5
22	1	6
23	1	7
24	1	8
25	1	9
26	1	A
27	1	B
28	1	C
29	1	D
30	1	E
31	1	F
32	2	0
33	2	1
34	2	2
35	2	3
36	2	4
37	2	5
38	2	6
39	2	7
40	2	8

■ リモートマイク複数台接続時の子機のアドレス設定



親機：前頁のアドレス設定表と同じです。
子機：複数のリモートマイクが接続されているラインの本体側の音声入力 No. を基に、下図のように子機1、子機2のアドレス設定をします。

本体の音声入力 No.	リモートマイクアドレス					
	親機の DIP スイッチ		子機1の DIP スイッチ		子機2の DIP スイッチ	
	H	L	H	L	H	L
1	0	1	2	9	5	1
2	0	2	2	A	5	2
3	0	3	2	B	5	3
4	0	4	2	C	5	4
5	0	5	2	D	5	5
6	0	6	2	E	5	6
7	0	7	2	F	5	7
8	0	8	3	0	5	8
9	0	9	3	1	5	9
10	0	A	3	2	5	A
11	0	B	3	3	5	B
12	0	C	3	4	5	C
13	0	D	3	5	5	D
14	0	E	3	6	5	E
15	0	F	3	7	5	F
16	1	0	3	8	6	0
17	1	1	3	9	6	1
18	1	2	3	A	6	2
19	1	3	3	B	6	3
20	1	4	3	C	6	4

本体の音声入力 No.	リモートマイクアドレス					
	親機の DIP スイッチ		子機1の DIP スイッチ		子機2の DIP スイッチ	
	H	L	H	L	H	L
21	1	5	3	D	6	5
22	1	6	3	E	6	6
23	1	7	3	F	6	7
24	1	8	4	0	6	8
25	1	9	4	1	6	9
26	1	A	4	2	6	A
27	1	B	4	3	6	B
28	1	C	4	4	6	C
29	1	D	4	5	6	D
30	1	E	4	6	6	E
31	1	F	4	7	6	F
32	2	0	4	8	7	0
33	2	1	4	9	7	1
34	2	2	4	A	7	2
35	2	3	4	B	7	3
36	2	4	4	C	7	4
37	2	5	4	D	7	5
38	2	6	4	E	7	6
39	2	7	4	F	7	7
40	2	8	5	0	7	8

※子機が1台のときは、子機1または子機2のどちらのアドレスを設定してもかまいません。

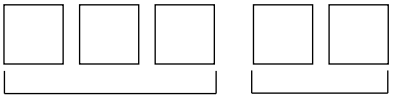
- リモートマイクのアドレスは、「データ設定表（別冊）」の「リモートマイクアドレス表」に記入してください。

個別放送の回線番号

この章の説明に従って、個別放送の回線番号表（ ☞ P.26「回線番号表の例」）を作成してください。

■ リモートマイクに表示される回線番号

マトリックスシステム内部のコンピュータでは、個別放送の回線番号は以下のように管理されます。
放送するときに、この5桁の番号がリモートマイクの液晶表示部の下段に表示されます。
リモートマイクを操作するときの番号の桁数とは異なることがあります。



001～064 *　　01～50
（音声出力B1～B64の番号）　（スピーカセレクタの番号）

- 最初の3桁は音声出力ボードの音声出力番号（B1～B64）を001～064 *で表します。
- 後の2桁は音声出力をスピーカセレクタを用いて分配し、さらに複数の回線を構成するときのスピーカセレクタの番号を1～50で表します（最大50回線）。スピーカセレクタを使わない回線のとき、00を表示します。
- 本体でのデータ設定における音声出力ゾーン番号Zn-mのnが最初の3桁、mが後の2桁になります。

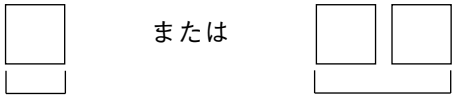
* SX-1000Mでの音声出力の番号です。SX-1000では、001～128です。
※スピーカセレクタとしては、業務用ジャンクションパネルJP-034/024を適用します。JP-034/024の最大回線数は50回線です。

■ リモートマイクで操作するときの回線番号

リモートマイクで放送操作をするときの回線番号は次のとおりです。
この番号で回線番号表を作成してください。（リモートマイクの放送操作 ☞ P.12「個別放送をするとき」）

● スピーカセレクタ（SS）を使わない音声出力の回線番号

［SX-1000Mのとき］

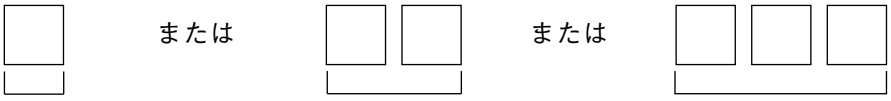


1～9　または　10～64
（音声出力B1～B9の番号）（音声出力B10～B64の番号）

1～64までの番号で登録します（1桁または2桁）。

例：音声出力番号15（液晶表示では01500）に放送するときは、テンキーで ① ⑤を押してから 登録 スイッチを押し、 放送 スイッチを押します。

［SX-1000のとき］



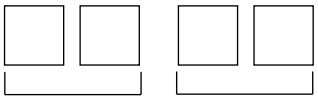
1～9　または　10～99　または　100～128
（音声出力B1～B9の番号）（音声出力B10～B99の番号）（音声出力B100～B128の番号）

1～128までの番号で登録します（1～3桁）。

例：音声出力番号115（液晶表示では11500）に放送するときは、テンキーで ① ① ⑤を押してから 登録 スイッチを押し、 放送 スイッチを押します。

● スピーカセレクタ（SS）を使う音声出力の回線番号

［SX-1000M のとき］



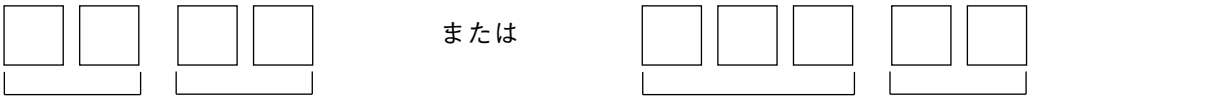
01～64
（音声出力 B1～B64 の番号）

01～50
（スピーカセレクタの番号）

01 ～ 64 までの音声出力番号と、01 ～ 50 までのスピーカセレクタ番号を組み合わせて回線番号とします。
音声出力の番号、スピーカセレクタの番号とも 1 ～ 9 には頭に 0 を付けます。

例：音声出力番号 5 でスピーカセレクタ番号 8 の回線（液晶表示では 00508）に放送するときは、テンキーで ⓪ ⑤ ⓪ ⑧ を押してから 登録 スイッチを押し、 放送 スイッチを押します。

［SX-1000 のとき］



01～99
（音声出力 B1～B99 の番号）

01～50
（スピーカセレクタの番号）

または

100 ～128
（音声出力 B100 ～ B128 の番号）

01～50
（スピーカセレクタの番号）

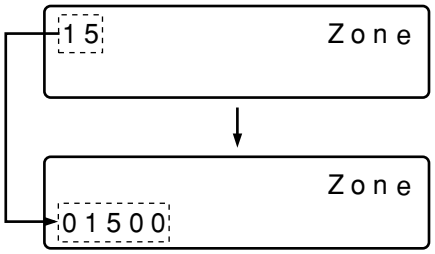
01 ～ 128 までの音声出力番号と、01 ～ 50 までのスピーカセレクタ番号を組み合わせて回線番号とします。
音声出力の番号、スピーカセレクタの番号とも 1 ～ 9 には頭に 0 を付けます。

例：音声出力番号 100 でスピーカセレクタ番号 8 の回線（液晶表示では 10008）に放送するときは、テンキーで ① ⓪ ⓪ ⓪ ⑧ を押してから 登録 スイッチを押し、 放送 スイッチを押します。

● リモートマイクの液晶表示部の回線番号の桁数

スピーカセレクタを使う回線も、使わない回線も、回線番号を登録し回線番号表示が上段から下段へ移行したとき、下段では 5 桁の回線番号表示となります。

SX-1200 の液晶表示部



回線番号が1～3桁のとき
（スピーカセレクタを使わない回線）

下段の表示の下2桁に00が付きます。

● 回線番号表の例

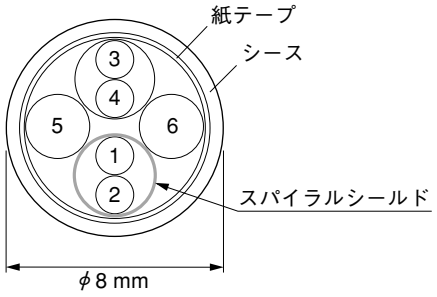
名　　称	回　線　番　号	グループ番号、名称
1階　百貨店　売場	1	A1、1階売場
1階　専門店　売場	2	
1階　従業員　控室	0301	A2、バックヤード
1階　従業員　食堂	0302	
倉　　庫	4	A3、倉庫

リモートマイク SX-1200 の本体との接続

■ 接続上の条件

- 基本的には 1 リモートマイク入力に 1 台のリモートマイク（SX-1200）を接続するようにします。
- 本体機器（SX-1000/-1000M）とリモートマイク（SX-1200）間の最大延長距離は 1000m です。
- SX-1200 の「データ 2」端子は使用しません。
- データライン端子には極性がありません。
- 本体機器に接続できるリモートマイクの台数は 18 台までです。
- 本体機器のリモートマイク用電源（DC 24V）端子には、2 台までのリモートマイクが接続できます。
  3 台以上のリモートマイクを接続するには、本体側に別の電源（AD-011, AD-031B など）が必要です。
  （☞ P. 30「リモートマイク用の電源」）
- 本体とリモートマイクとの接続ケーブルは、YR-2010（当社別売品）または CPEV･S 線（遮蔽、ドレンワイヤ付）をご使用ください。

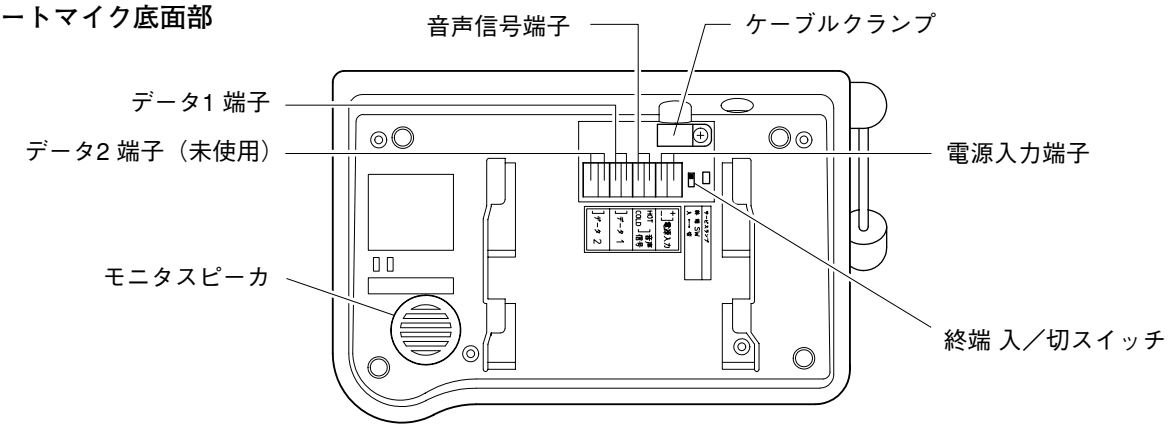
- 多心ケーブル YR-2010 の仕様
  長さ：200 m
  色　：黒
  重量：18 kg



No.	色	線径	用途
1	黄	0.65 mm	音声信号線
2	白	0.65 mm	
3	茶	0.65 mm	データ線
4	橙	0.65 mm	
5	赤	1.05 mm	電源線
6	黒	1.05 mm	

1, 2…ツイストペア線
3, 4…ツイストペア線
導体はすべて単線です。

リモートマイク底面部



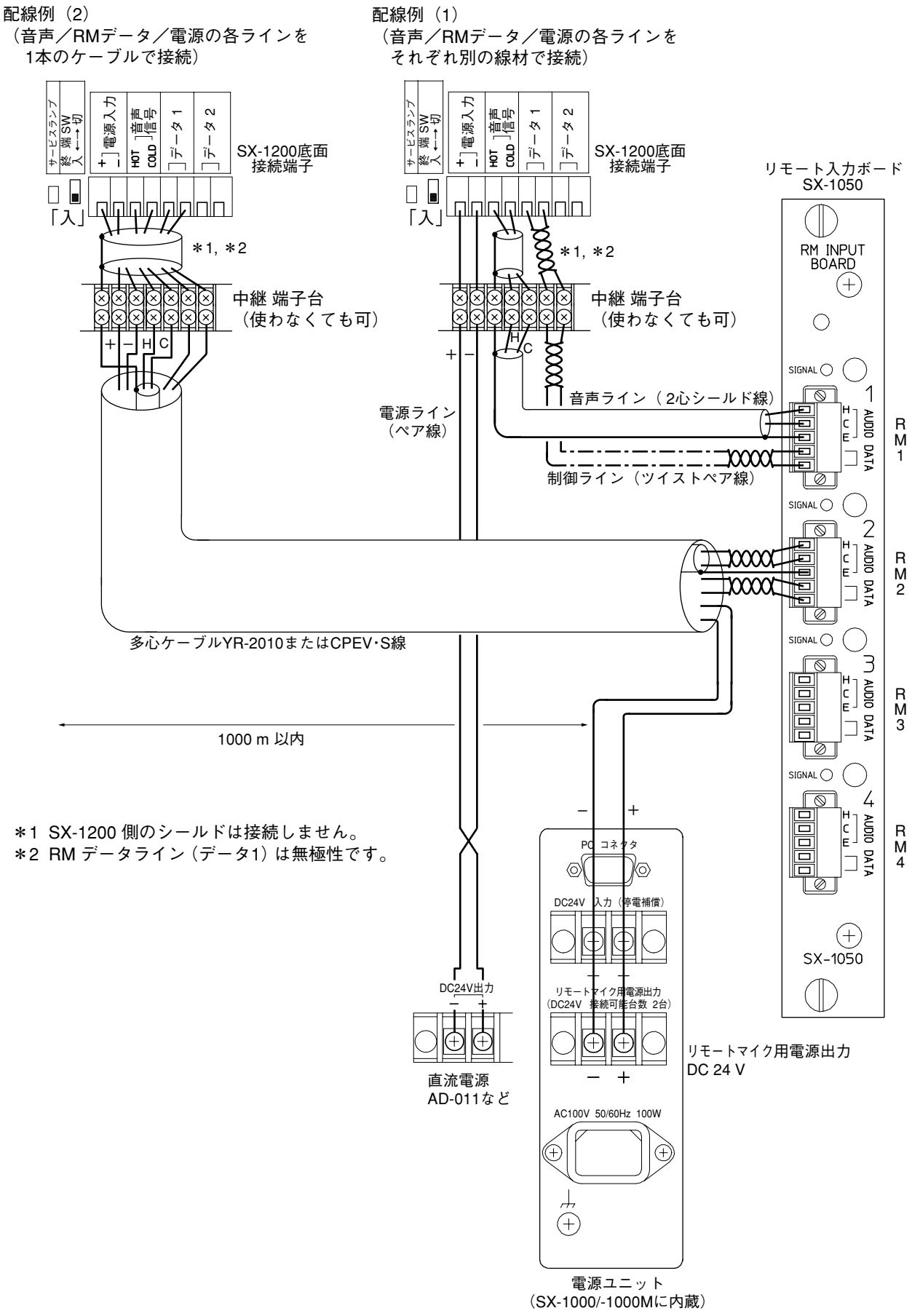
■ CPEV･S 線について

- CPEV･S 線は遮蔽およびドレンワイヤ付のもの（CPEV･S）を使用してください。
- 使用する CPEV･S 線の線径は 0.65 mm、0.9 mm または 1.2 mm のものが適当です。
- 接続は音声線、データ線および電源線があり、音声線には 1 対＋ドレンワイヤ、データ線には 1 対、電源線は線径と延長距離に応じた対数を使用します。
- 音声線およびデータ線は、線径 0.65 mm のもので延長距離 1000 m の仕様を満足します。
- 電源線の接続は、右の表を参考にしてください。

電源線に使用する対数（延長距離／線径）

線径＼距離	～200 m	～600 m	～1000 m
0.65 mm	1 対	2 対	3 対
0.9 mm	1 対	1 対	2 対
1.2 mm	1 対	1 対	1 対

■ リモートマイク SX-1200 1台（1ライン）の接続



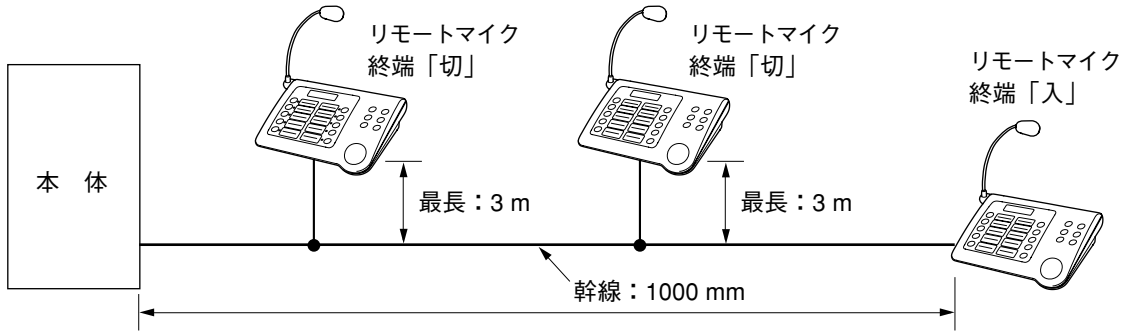
■ リモートマイクの複数台接続

● 接続の条件

以下の条件のもとでは1つのリモートマイク入力に3台までのリモートマイクSX-1200を接続することができます。ただし、この方法での接続は特殊なケースでの設置となりますのでご注意ください。

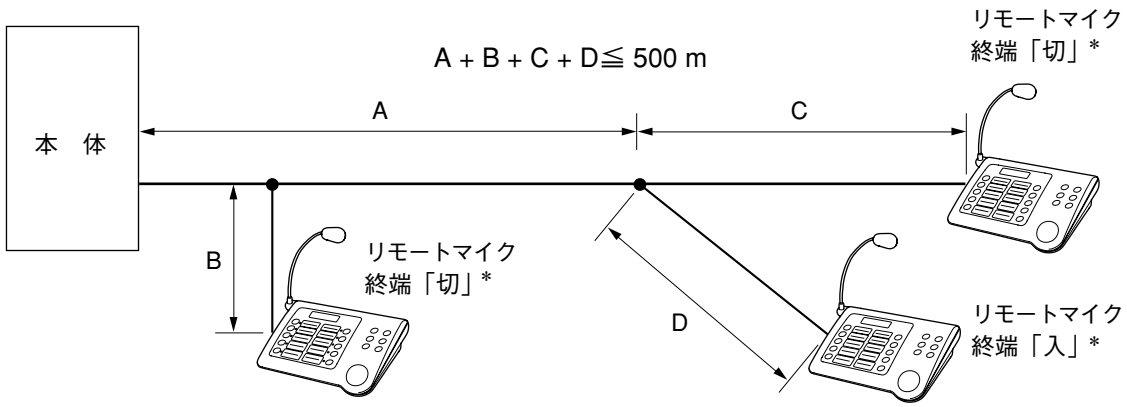
- 3台までのリモートマイクは同じ内容での設定（グループ、マイクスイッチ、オートチャイム、オートマイクOFFなど）になります。リモートマイクの間の優先制御は「先取り」または「後取り」の選択が可能です。
- 1つのリモートマイク入力に3台までのリモートマイクが接続されるとその3台はリモートマイクの最大接続台数18台の内に数えられます。このとき接続できる残りのリモートマイクの台数は15台になります。
- 接続線の延長距離および各リモートマイクの終端スイッチは下図のようになります。

パラブランチ接続



フリートポロジー接続

※ この接続は基本入力ボードのNo.3およびNo.4入力では対応できません。



* どれか1台のリモートマイクの終端スイッチを「入」にし、残りを「切」にします。
（この図の終端スイッチの設定は一例です。）

- 音声線およびデータ線は同一線上で接続できますが電源線はリモートマイクごとに接続するようにしてください。

● 複数台接続でのデータ設定機能の動作

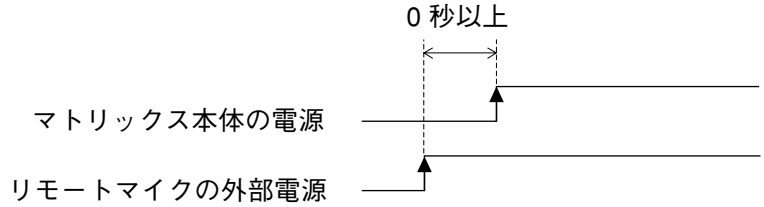
このシステムでは、複数台接続されたライン上のリモートマイクは1台として管理されています。そのため、リモートマイクに関するマトリックス本体でのデータ設定は1台分しかされていません。しかし、同じ設定内容がそのライン上のすべてのリモートマイクに適用されます。
その結果として、

1. 複数台接続されたライン上のリモートマイク間で、操作上での違いはありません。（グループ登録、ファンクション設定、チャイム音などの本体でのデータ設定機能）
2. 複数台接続されたライン上のリモートマイクは、システム設定上では同一優先度です。そのラインでの「同一優先度の機器（リモートマイク）間での優先方式」を先取り／後取りのどちらかに設定できます。初期状態は「後取り」です。
（ ☞ 設置要領書（データ設定編））

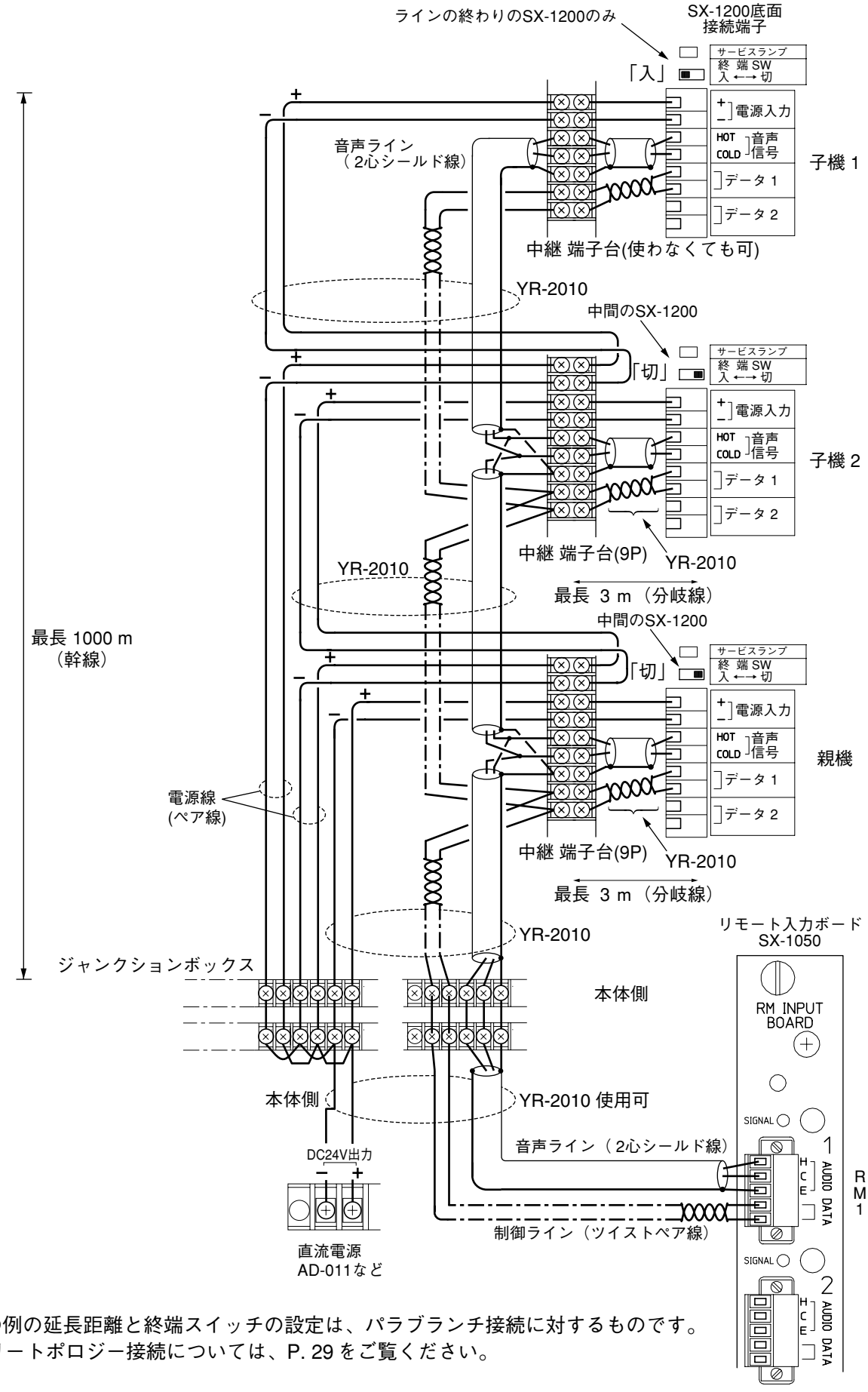
※リモートマイクで実施される動作設定機能（ビープ音、個別放送機能、放送開始遅延時間）は、それぞれのリモートマイクごとに動作します。

● リモートマイク用の電源

- 停電補償機能付のシステムで、停電時に3台目以降のリモートマイクからの放送もできるようにしたいときは、リモートマイク用の別電源にもバッテリーバックアップが必要です。
- リモートマイクに外部電源を使うときは、次の順序で電源投入をしてください。



■ リモートマイク SX-1200（3台／1ライン）の接続（パラブランチ接続例）

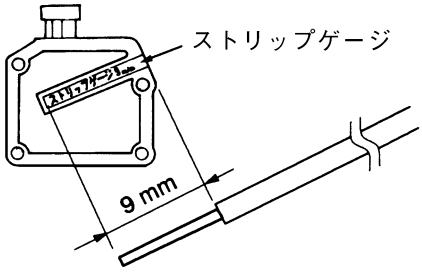


※この例の延長距離と終端スイッチの設定は、パラブランチ接続に対するものです。
フリートポロジー接続については、P. 29 をご覧ください。

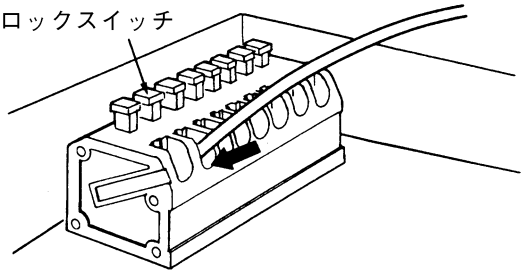
■ 接続ケーブルのねじなし端子台への配線

● 作業のしかた

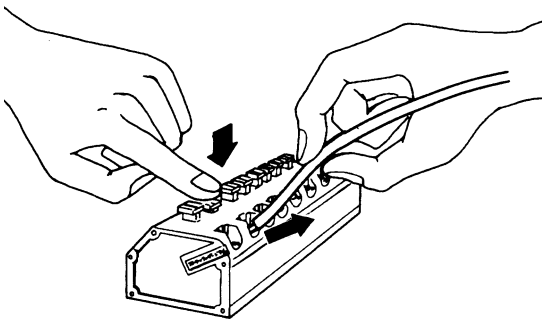
1. 被覆のむきかた
端子台の横にあるストリップゲージを使用して、心線が9 mmになるように被覆をむきます。



2. 線材の差し込みかた
端子台の穴に線材を差し込み、被覆の根元まで押し込みます。

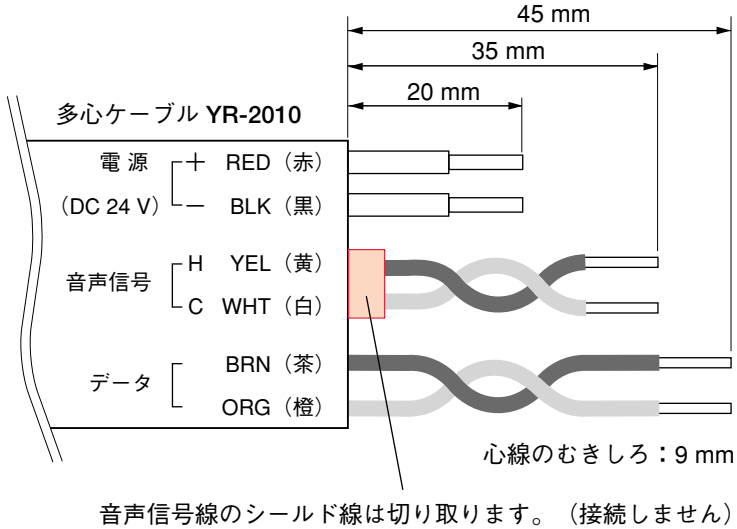


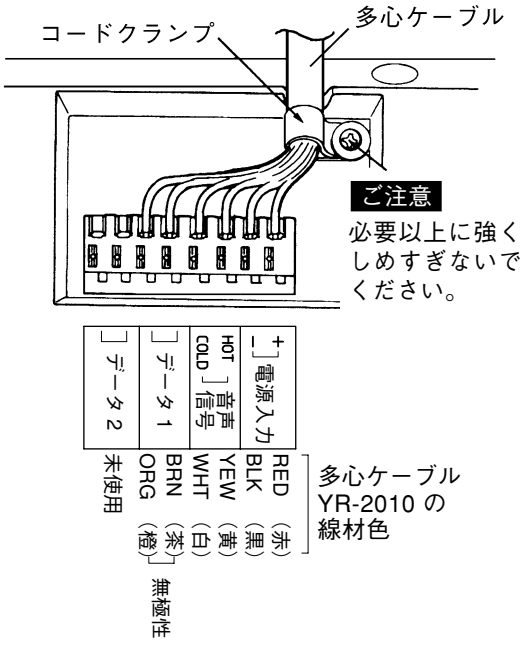
3. 線材の外しかた
ロックスイッチを押したまま、線材を引き抜きます。
ロックスイッチは、必要以上に強く押さないでください。



● 配線手順

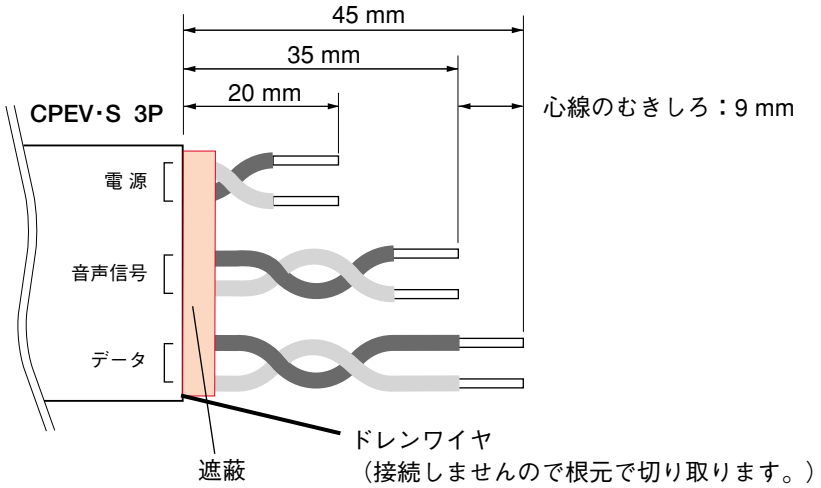
1. 下図のようにケーブルの心線をむき出します。
（当社多心ケーブルYR-2010の場合）



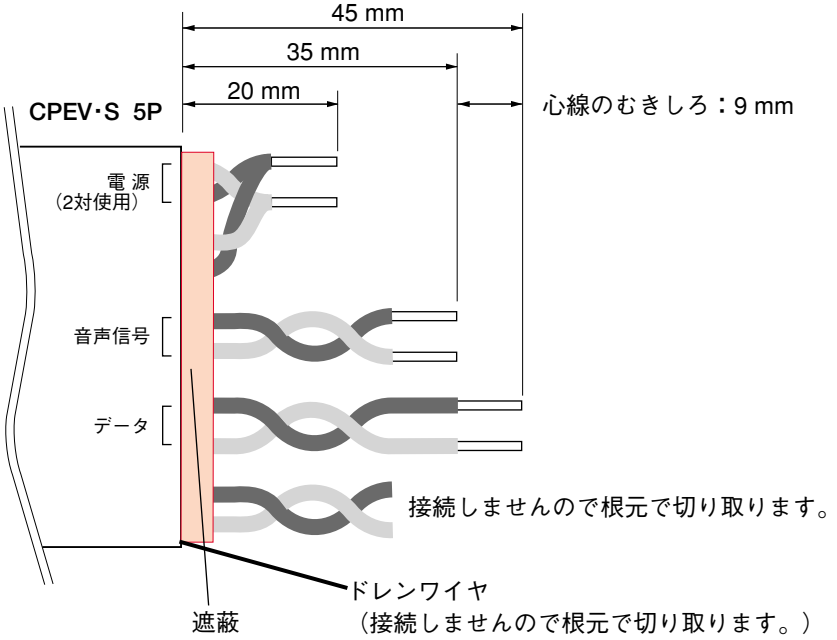


2. 電源線（赤・黒）を接続します。
3. 多心ケーブルをクランプで固定します。
4. データ線を接続します。
5. 音声信号線を接続します。

● 心線のむき出し（CPEV･S 3P の場合）

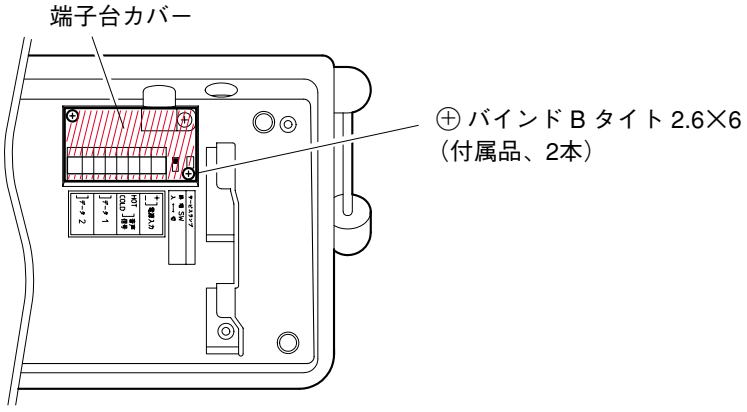


● 心線のむき出し（CPEV･S 5P の場合）



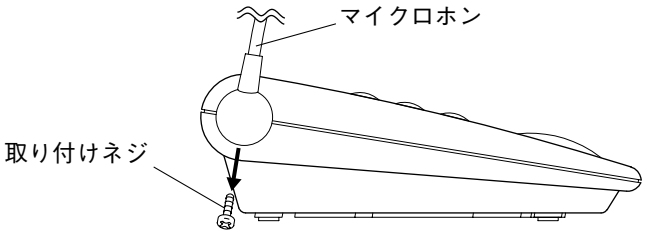
■ 端子台カバーの取り付け

静電気により内部の部品が破損することを防ぐため、外線接続後に付属の端子台カバー（透明樹脂製）を取り付けてください。

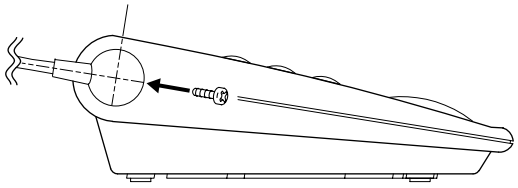


壁掛設置のしかた

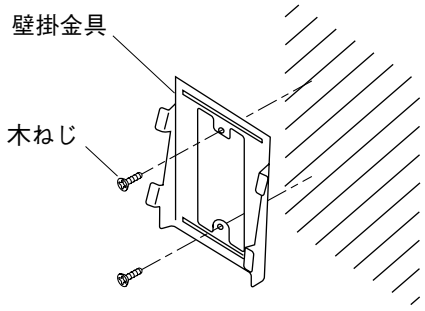
1. マイクロホンを取り付けているねじを外します。次にマイクロホンを抜き取ります。（かるくひっぱってください。）



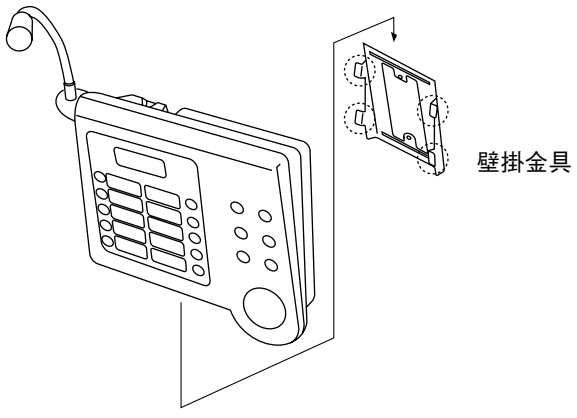
2. マイクロホンを 90˚ 回転させた位置で、本機の金具に沿って差し込み、ねじ止めします。



3. 壁掛金具の取り付け
付属品の木ねじで、直接壁に取り付けます。



4. 壁掛金具への取り付け
SX-1200 底面の壁掛金具はめ込み部と壁掛金具を合わせて、SX-1200 をかるく押し下げます。



通電と通信セットアップスイッチの操作

■ 接続後の通電

接続完了後にリモートマイクへの通電を開始します。このとき液晶表示部にバックライトが点灯することを確認します。
バックライトが点灯しないときは以下のことが考えられますので再確認をしてください。

- 電源線が未接続または断線
- 電源線の極性が逆で接続
- 端子台での誤接続

■ 通信セットアップスイッチの操作

- 本体機器とSX-1200との接続が終了し通電させた後に通信セットアップスイッチを押してください。先の細い物をご用意ください。このスイッチを押すことで、本体側が接続されているSX-1200を認識しデータ通信が可能な状態になります。
- このスイッチを押す前には本体側での「システム設定」が終了していることを確認してください。
  本体側での「システム設定」がされていないときは、このスイッチを押しても本体側がSX-1200を認識できないため、データ通信ができません。(「動作設定」はされていなくてもかまいません)

  システム設定：「システム構成(設定表タイプ0)」、「音声入力属性設定(設定表タイプ1)」、「ミキシング・フェードアウト／イン設定(設定表タイプ2)」*、「スピーカセレクタ設定(設定表タイプ3)」の4つのデータ設定。動作設定の前に必ず設定する必要がある基本的な設定。

  動作設定　　：「音声入力動作設定(設定表タイプ4～5)」、「BGMパターン設定(設定表タイプ6～7)、「リモートマイク設定(設定表タイプ16～20)」などのシステムの動作を決める設定。
- パラブランチ接続をしているときは、最初に親機の通信セットアップスイッチを押した後に子機のスイッチを押します。(子機1、2の順序は問いません)
- SX-1200の増設で、パラブランチ接続を行うときは、接続後に子機のみの通信セットアップスイッチを押すことで使用が可能となります。
  このときの接続時には、本体側からの電源を切った状態で作業を行ってください。

* SX-1000Mのみ

■ 通信セットアップスイッチ操作時の正常な表示

● 通信セットアップ操作前の表示

```
Unconfigured.
Execute setup.
```

通信セットアップスイッチを押す前はこの表示になります。

※設置作業中にこの表示が出たときは、他のいずれかのリモートマイクと同じアドレスが重なって設定されています。正しい設定に直してください。

● 通信セットアップが正しくされたときの表示

それぞれのリモートマイクで、通信セットアップスイッチを押します。

本体からリモートマイクへデータのダウンロードが終った後に､次の表示が出て放送ができる状態になります。

```
Group A
```

すべてのリモートマイクで通信セットアップスイッチ操作をしてください。

※グループ選択スイッチの設定がされていないと、No data is set. の表示が出ます。
（☞ 次のページ「本体のデータ設定の不備」）

■ 通信セットアップスイッチ操作時のエラー表示

● 本体とリモートマイクの設定の不備

```
Setup rejected.
```

通信セットアップスイッチを押して、この表示が出たときは、本体とそのリモートマイクとの間に次の設置上の問題があると考えられます。

- 本体の音声入力属性設定で、接続されている音声入力がリモートマイク（RM）となっていない。
- 本体の入力No.とリモートマイクのアドレスが一致していない。
- 本体とリモートマイク間のデータラインが切れている。
- リモートマイクの電源は入っているが、本体の電源が切れている。

● 本体のデータ設定の不備

```
No data is set.
```

本体での動作設定でグループ選択スイッチ設定がまったくされていないとこの表示になります。

→ クリア スイッチを押すとこのメッセージは消えます。

→ 1. 本体で正しくグループ選択スイッチ設定をします。
2. 設定したグループ選択スイッチを押します。
→ 正しく設定されていれば、正常に放送できます。

■リモートマイクの電源異常表示

● 電圧異常

```
Low DC voltage
Check power line
```

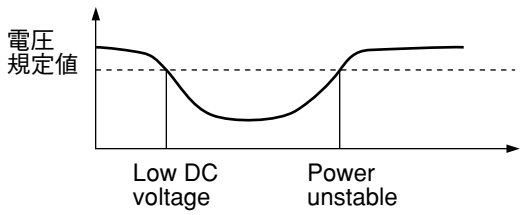
リモートマイクに供給されている電圧が低いとこの表示になります。
※この表示は設置時に限らず、運用時にも出ます。
→電源ラインを点検してください。

⬇

● 電圧正常復旧

```
Power unstable
```

- 電圧が規定値に戻るとこの表示になります。
- その後に問題がなければこの表示は消えます。
- Low DC voltage と Power unstable の表示が繰り返されるときは、電圧が変動しています。
→ 電源を点検してください。



リモートマイクでの機能設定

■ 機能設定の項目

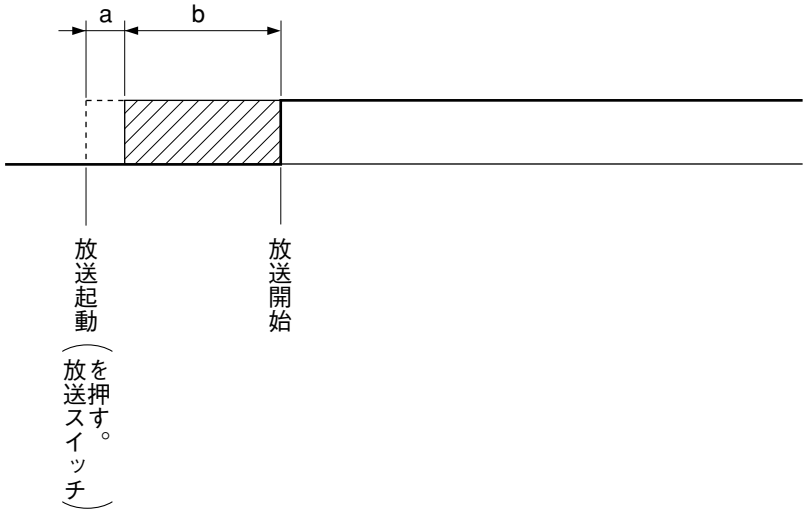
● リモートマイクごとに、次の3つの機能のデータ設定ができます。

	設　定　機　能	初期設定状態
1	ビープ音（スイッチ操作確認音）　あり／なし	あり
2	個別放送機能　あり／なし	あり
3	放送開始遅延時間　0～4秒（0.5秒単位）	1秒

1. ビープ音（スイッチ操作確認音）あり／なし
　操作時確認音（ピッ）、エラー音（ピピピ）などのビープ音を出力するかしないかを設定します。

2. 個別放送機能　あり／なし
　個別放送をするかしないかを設定します。「なし」にすると個別選択スイッチを押しても動作しません。

3. 放送開始遅延時間　0～4秒（0.5秒単位）



a：通信時間 ＋ マトリックス回路の起動時間
b：遅延時間

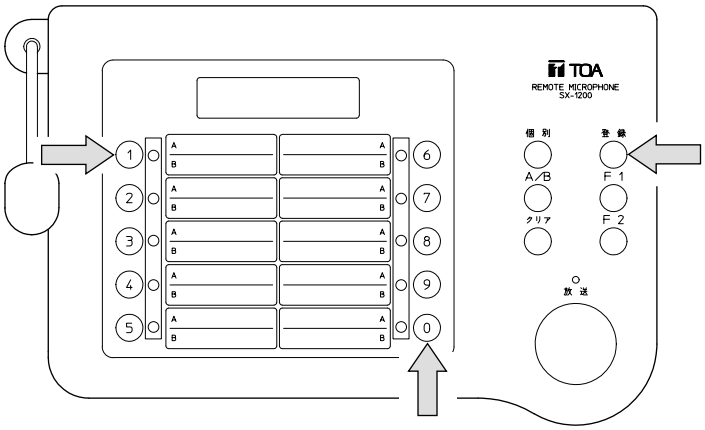
■ 機能設定のしかた

● 設定をする前に

- この設定をする前に、リモートマイクと本体の接続、アドレス設定、および通信セットアップスイッチ操作をすべて完了させておいてください。
- リモートマイクに電源が供給されていて、このリモートマイクから放送中でないときにこの設定ができます。

● 設定操作の手順

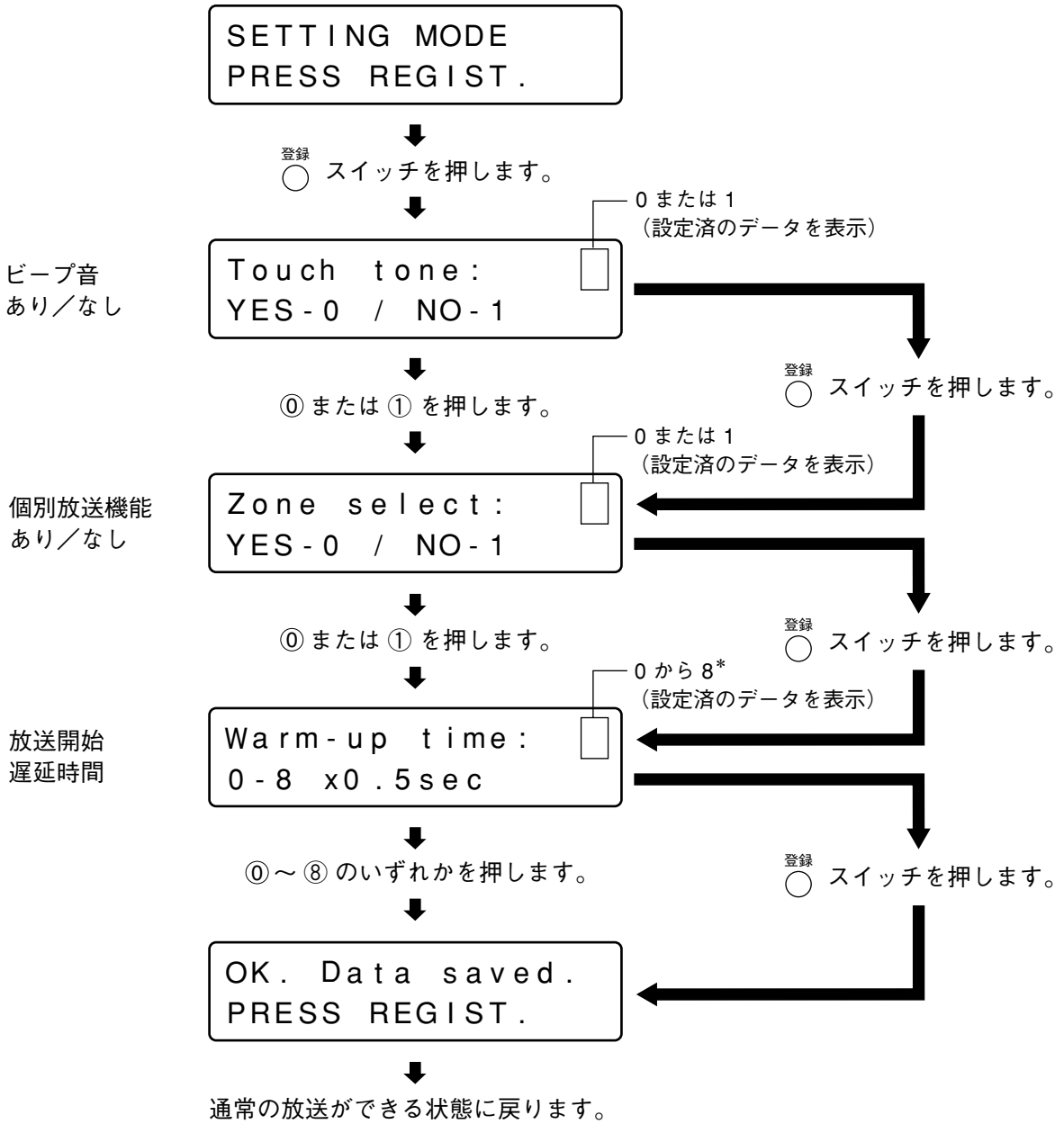
1. ⇨ 印の3つのスイッチを同時に押します。



➡ 設定モードになります。

2. 各機能の設定

※スイッチで設定する部分の表示が点滅しています。



＊初期値：2（2×0.5＝1秒）

音量調節のしかた

■ 放送音量の確認と調節

- 本体との接続、設置、設定（本体での「動作設定」）の完了後に、実際にSX-1200より放送をし、放送音量の確認をしてください。

- SX-1200は工場出荷時に適切な音量調節をしてありますが、放送音量が大きすぎたり（歪んでいたり）、小さすぎたり（ノイズが大きかったり）するときは、以下の手順にて再調節を行ってください。

- SX-1200には、次の3種類の音量調節があります。

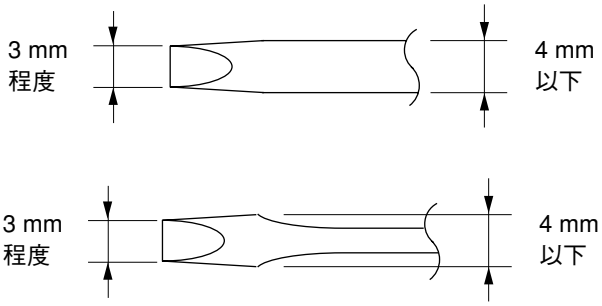
マイク感度 …… マイク放送するときの入力感度を調節します。

チャイム音量 …… チャイム放送するときの音量を調節します。

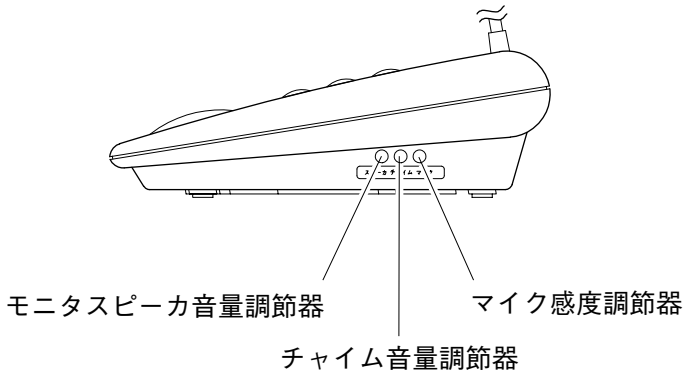
モニタ音量* …… チャイム放送するときのチャイムモニタ音の音量を調節します。

＊SX-1200底面のモニタスピーカからのみの出力です。放送音量には直接関係ありません。

- 調整の際は先の細い㊀ドライバ（精密ドライバなど）をご使用ください。



- 各種調節器はSX-1200の右側面にあります。



■ マイク感度調節

1. 記名カードおよびカードカバーを取り外します。

2. SX-1200 操作面の表示灯機能切換スイッチを「ピーク表示」側に切り換えます。

3. 系統選択を行い SX-1200 でマイク放送を開始します。

4. 放送スイッチの上の放送中表示灯（現在の状態ではピーク表示灯として機能しています）を確認しながら、しゃべっているときのみにピーク表示灯が点灯する程度にマイク感度調節器で調節します。
   - マイク感度調節器は右へ回すと音量が大きくなります。
   - しゃべるときは普段のアナウンス放送の声量でしゃべるようにしてください。（マイクと口との距離は約 10 cm 程離します。）
   - しゃべっていないときでもピーク表示灯が点灯する場合は放送音量の歪みが発生します。またしゃべっているときにピーク表示灯が点灯しない場合はノイズが発生している状態です。

5. 調節が終了したら、表示灯機能切換スイッチを必ず「放送中表示」側に戻しておきます。

6. 記名カードおよびカードカバーを元の通りに取り付けます。

■ チャイム音量調節

1. 系統選択を行い SX-1200 でチャイム放送をします。

2. 放送されているチャイム音量を確認しながら、チャイム音量調節器で適度な音量に調節します。
   - チャイム音量調節器は右へ回すと音量が大きくなります。

■ モニタ音量調節

1. 系統選択を行い SX-1200 でチャイム放送をします。

2. モニタスピーカに出力されているチャイム音量を確認しながら、モニタ音量調節器で適度な音量に調節します。

- モニタ音量調節器は右へ回すと音量が大きくなります。
- チャイム放送が常に聞き取れるような場所に設置されているためモニタスピーカからチャイム音を聞く必要がないときは、モニタ音量調節器を左回しいっぱいにしておくとモニタチャイム音が出力されなくなります。

仕　様

電　　源	DC 24 V（動作範囲 DC 16～33 V）
消 費 電 流	140 mA
音 声 出 力	0 dBV、600 Ω、平衡
マイクロホン	単一指向性エレクトレットコンデンサマイクロホン
チ ャ イ ム	内蔵（PCM 音源）、4 種類、内蔵スピーカによるモニタ可
そ の 他	マイク感度調節器、モニタスピーカ音量調節器、チャイム音量調節器
接 続 線	YR-2010（当社別売品、200 m 巻）または CPEV・S 線
最大延長距離	1000 m
使用温度範囲	0～40 ℃
線 路 抵 抗	22 Ω 以下（20 ℃）
仕　　上	ABS 樹脂、ブライトグレー（マンセル 6.1Y7.6/0.4 近似色）
寸　　法	241（W）×51（H）×151（D）mm
質　　量	0.6 kg

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

コードクランプ …… 1
記名カード …… 1
壁掛金具 …… 1
端子台カバー …… 1
端子台カバー取付ねじ（2.6×6） …… 2
木ねじ（3.5×2.5） …… 2

TOA

TOA インフォメーションセンター

商品や技術など、お問い合わせにお応えします。
受付時間　9：00 ～ 17：00（日曜・祝日除く）

フリーダイヤル（無料電話）
TEL. 0120 - 108 -117
〒665-0043 宝塚市高松町2番1号
TEL.（0797）72-7567
FAX.（0797）72-1090

商品の価格、在庫、修理およびカタログのご請求については、取扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。

133-12-513-5A